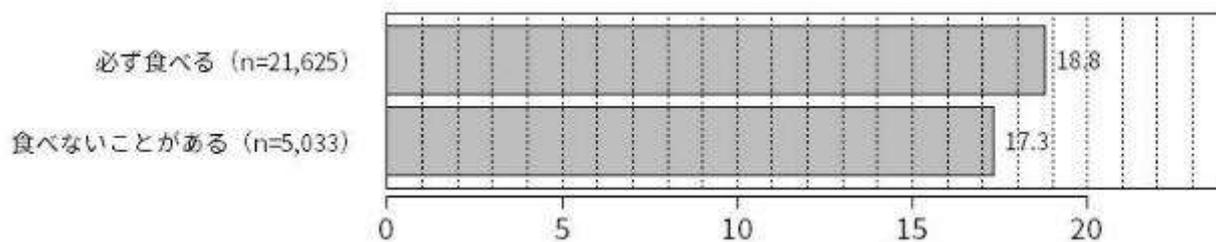


昼食の頻度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(子ども票 問7 × 子ども票 問26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図148上の説明参照。

<大阪市24区>



<大阪市西成区>

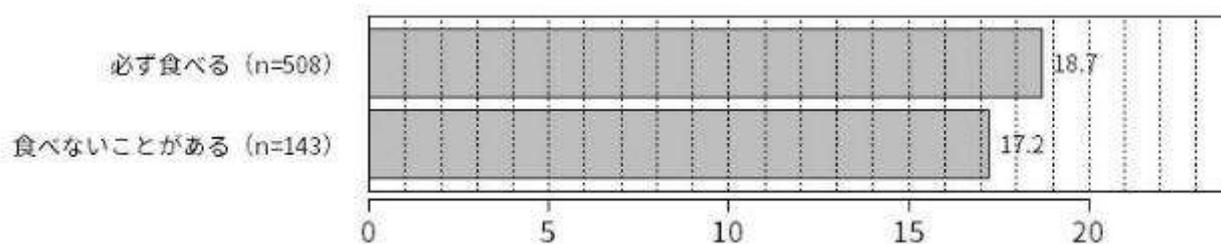
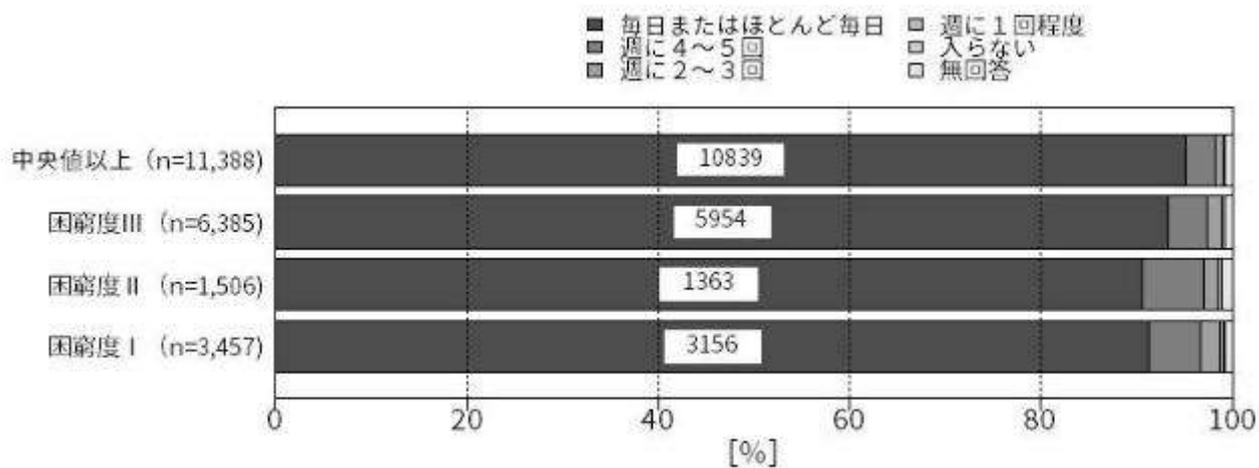


図190. 昼食の頻度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

休日の昼食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「必ず食べる」と回答した人の得点が18.7点であったのに対して、「食べないことがある」と回答した人は17.2点である。

困窮度別に見た、入浴頻度（子ども票 問8）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

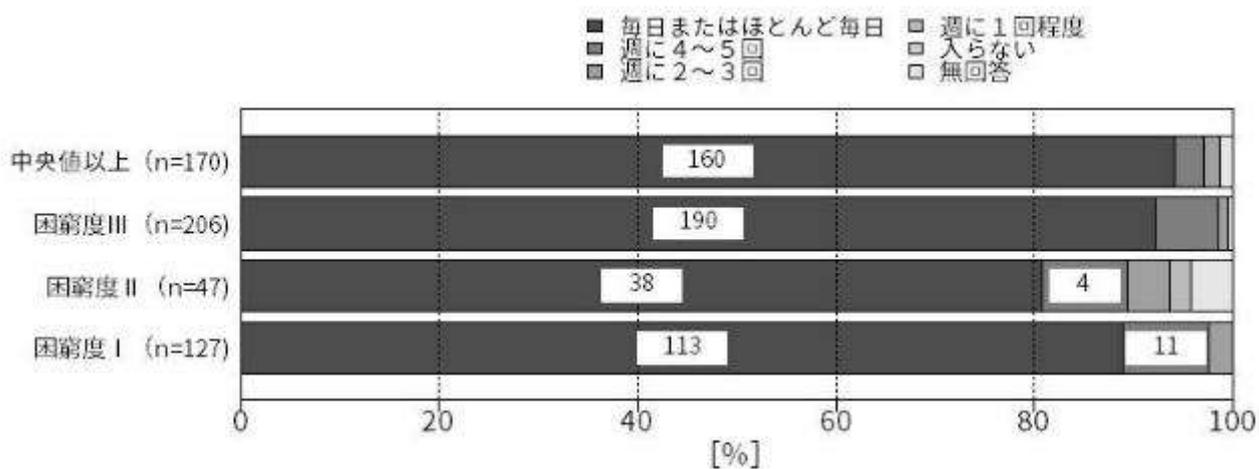
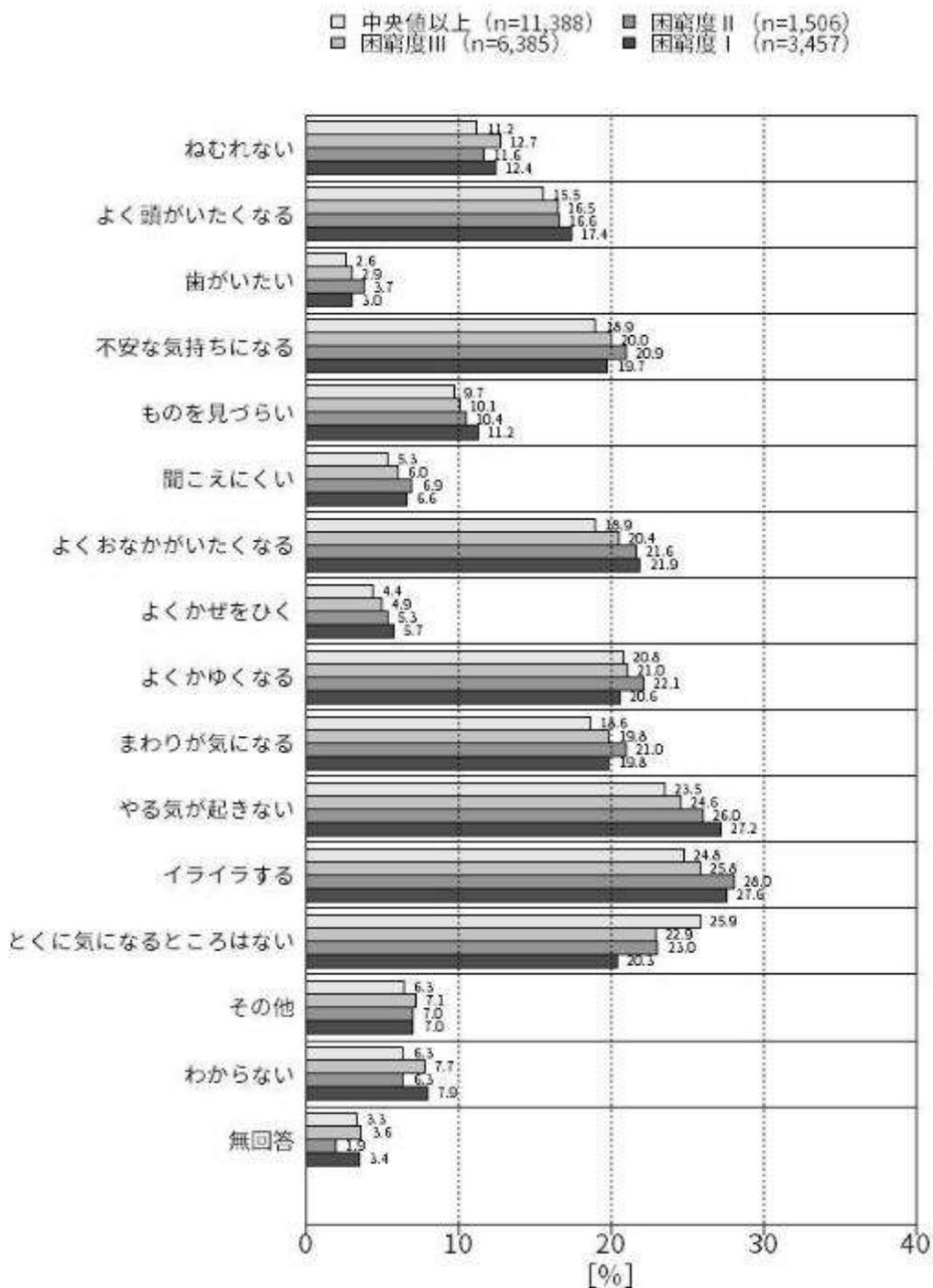


図 191. 困窮度別に見た、入浴頻度

困窮度別に入浴頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」と回答する割合は中央値以上群では 94.1%、困窮度Ⅰ群では 89.0%であった。

困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること（子ども票 問 24）

<大阪市 24 区>



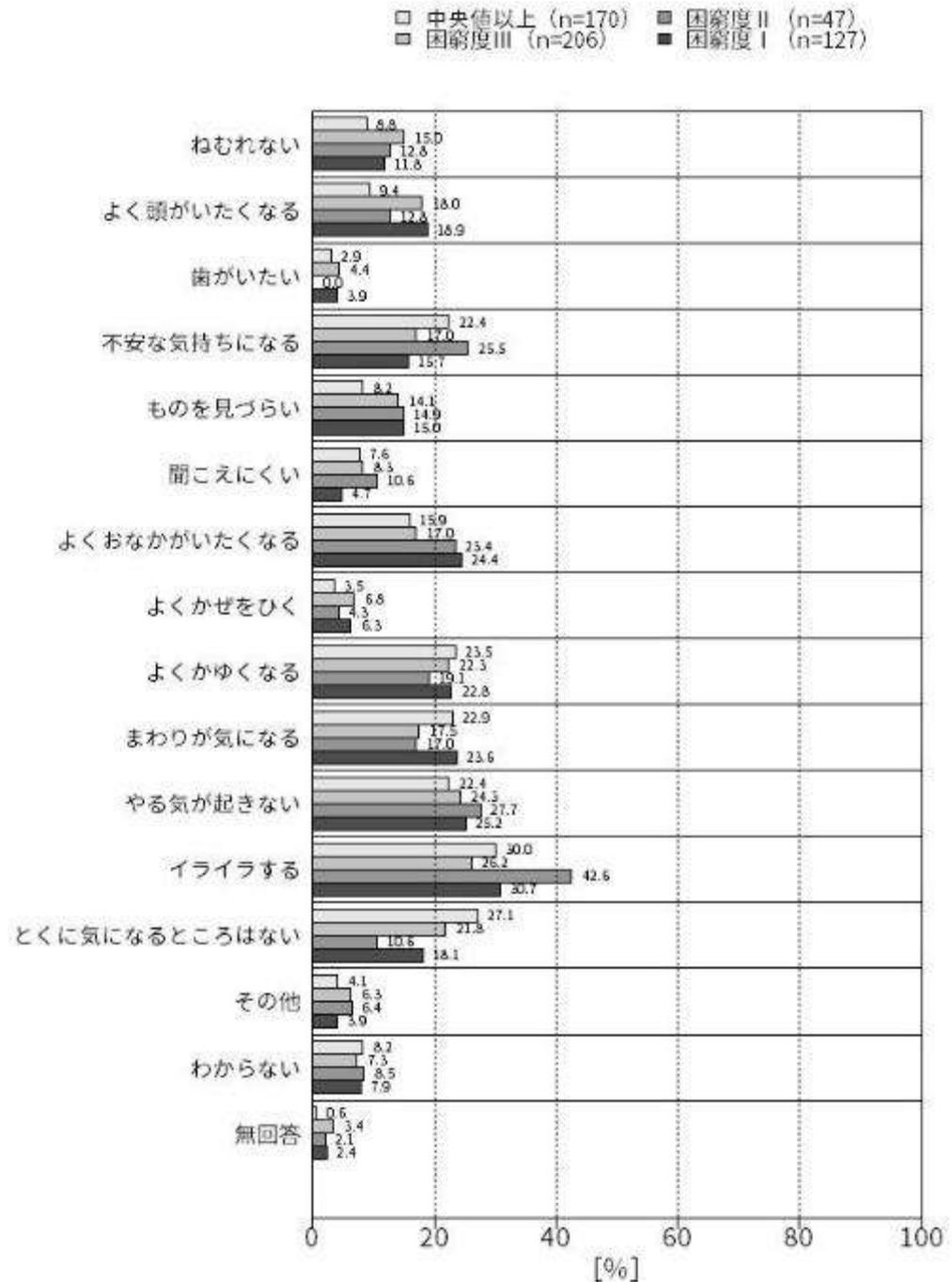


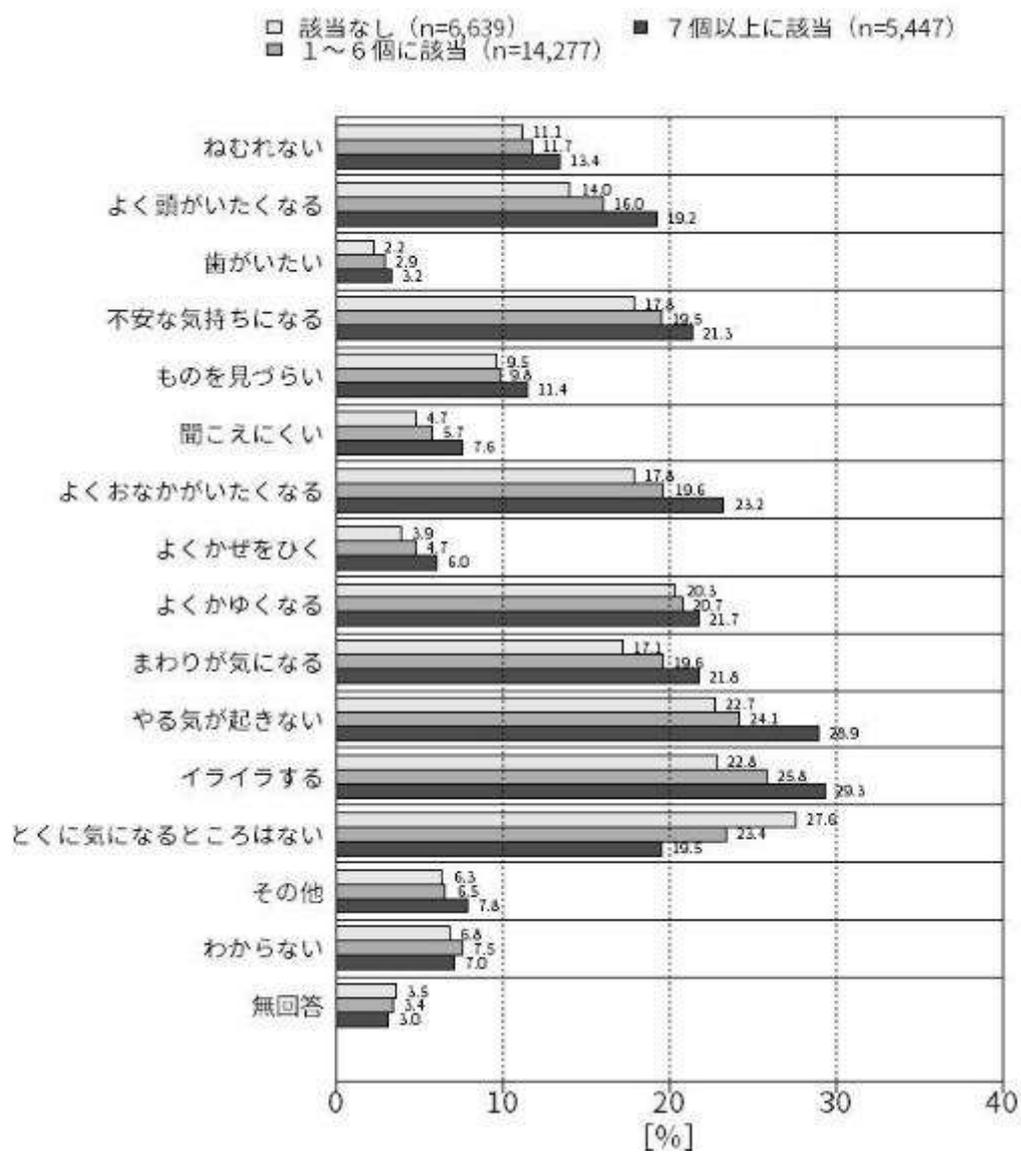
図 192. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること

困窮度別に自分の体や気持ちで気になることを見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度 I 群の数値を挙げると、「よく頭がいたくなる」18.9%（中央値以上群に対して、2 倍、「よくかぜをひく」18.9%（2.0 倍）、「ものを見づらい」15%（1.8 倍）となり、困窮度 I 群において高い項目が複数みられた。さらに、中央値以上群と上記の項目ほどの差はないものの、困窮度 I 群では、「やる気が起きない」25.2%（1.5 倍）、「イライラする」30.7%（1.3 倍）など、心理的・精神的症状を示す項目での割合の高さも無視できない。

経済的な理由による経験該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

(保護者票 問7 × 子ども票 問24)

<大阪市24区>



<大阪市西成区>

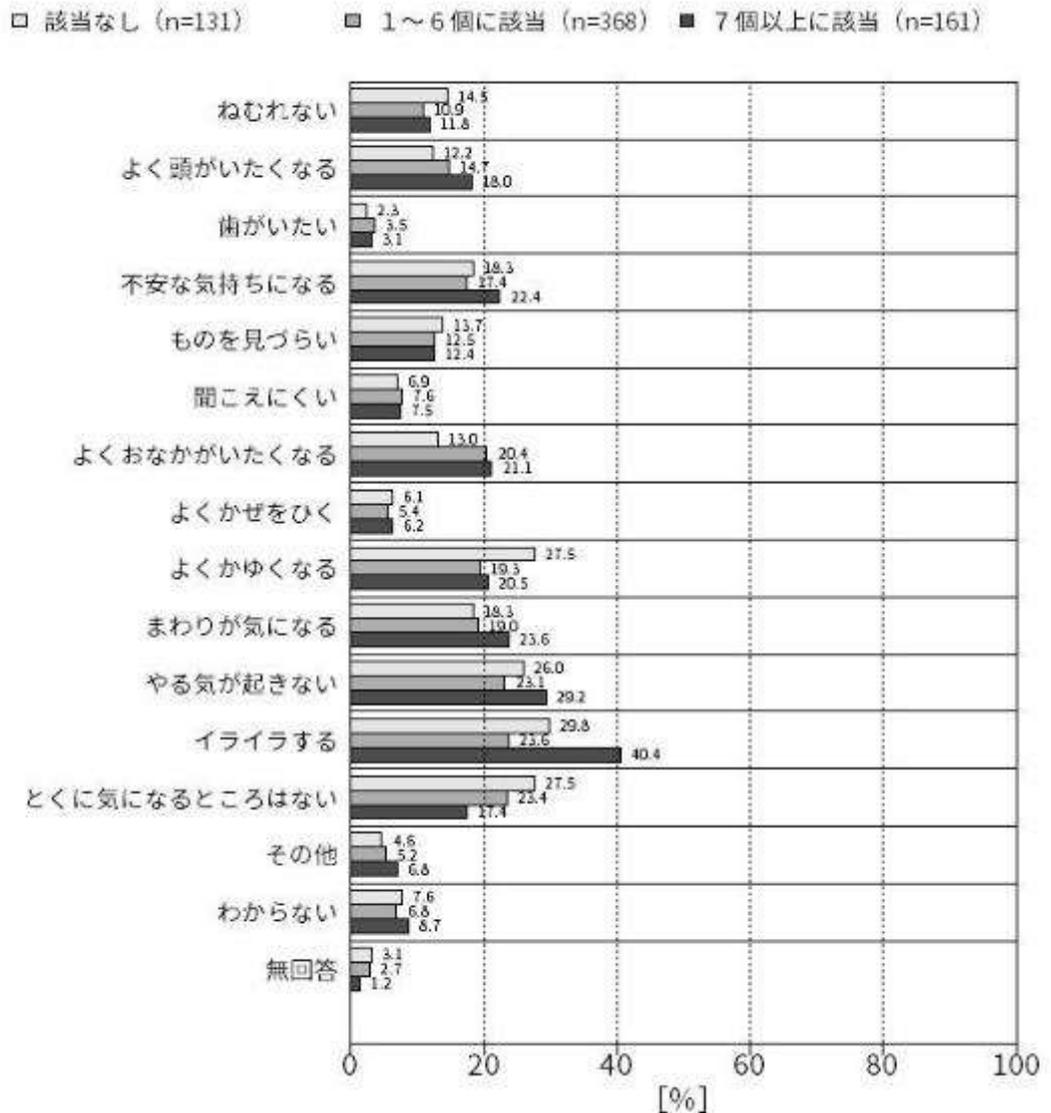
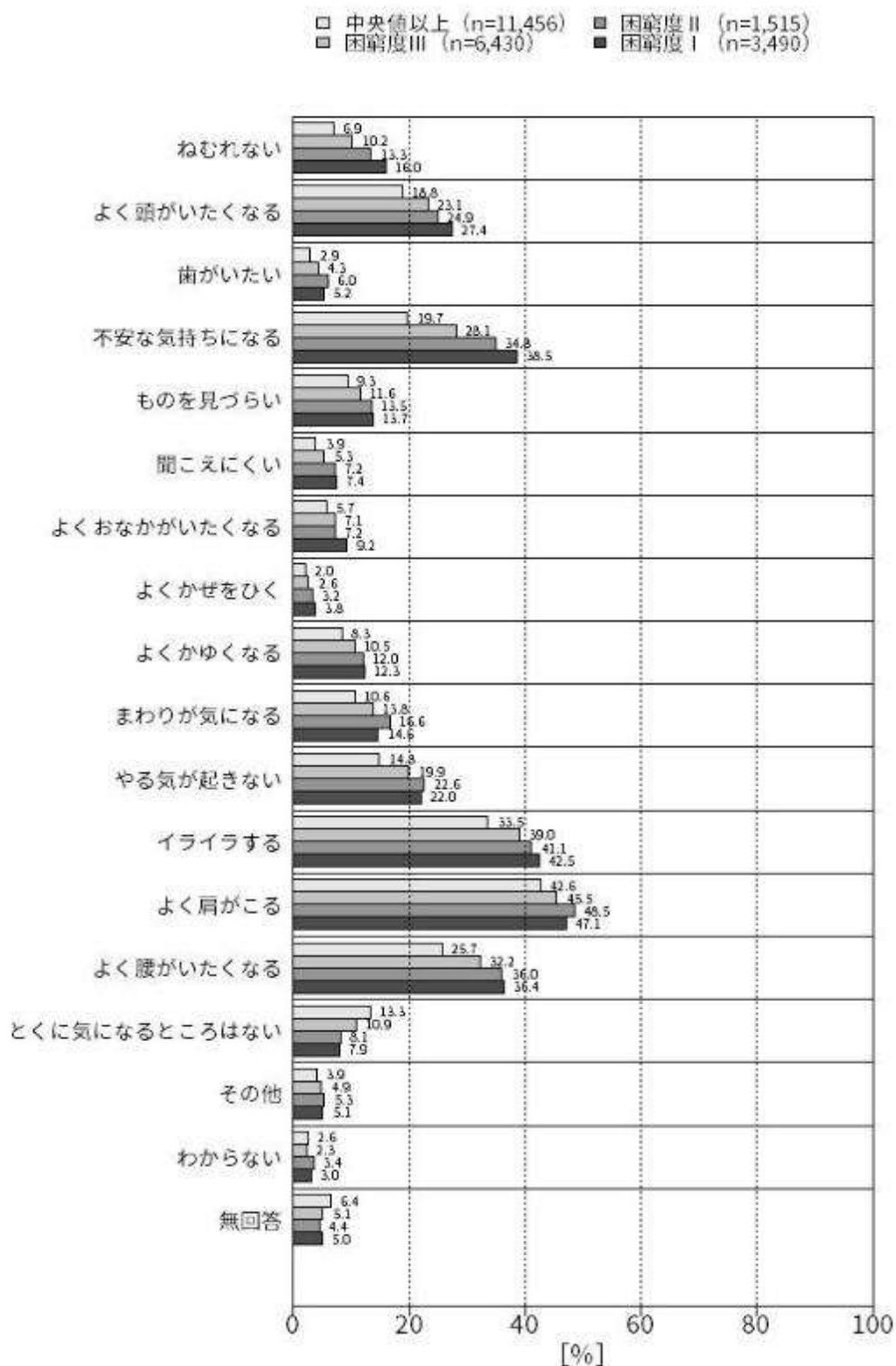


図 193. 経済的な理由による経験該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体や気持ちで気になることを見ると、「該当なし」と「7個以上に該当」と回答した人との差が大きい項目に着目しながら、「7個以上該当」群の数値を挙げると、「よくおなかがいたくなる」21.1%（「該当なし」に対し1.6倍）、「よく頭がいたくなる」18.0%（1.5倍）、「イライラする」40.4%（1.4倍）となっている。さらに、「該当なし」と上記の項目ほどの差はないものの、「7個以上に該当」と回答した人では、「歯がいたい」3.1%（1.3倍）、「まわりが気になる」23.6%（1.3倍）、など、ここでも心理的・精神的状況を示す項目での割合の高さが示された。

困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること（保護者票 問26）

<大阪市24区>



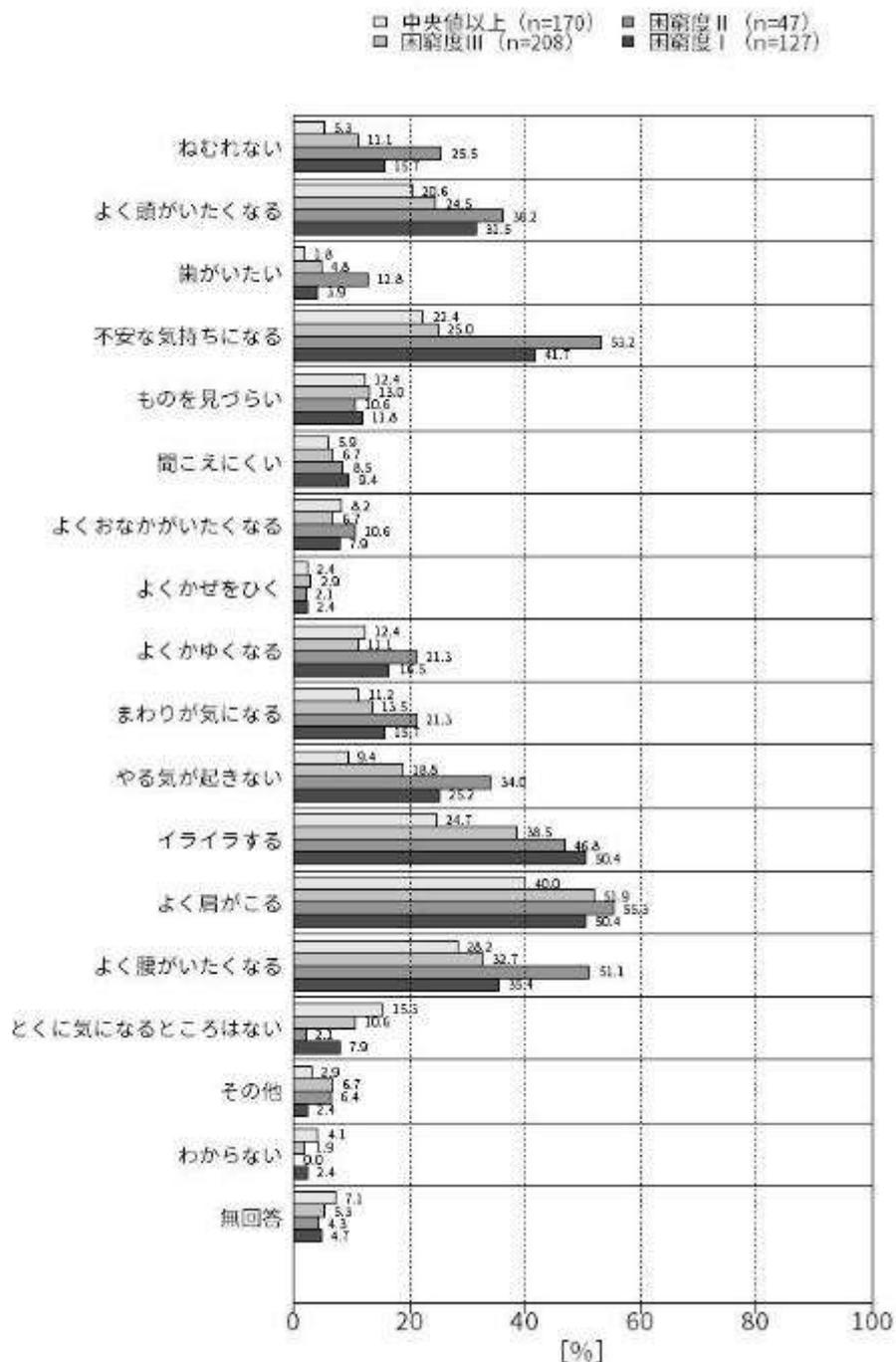


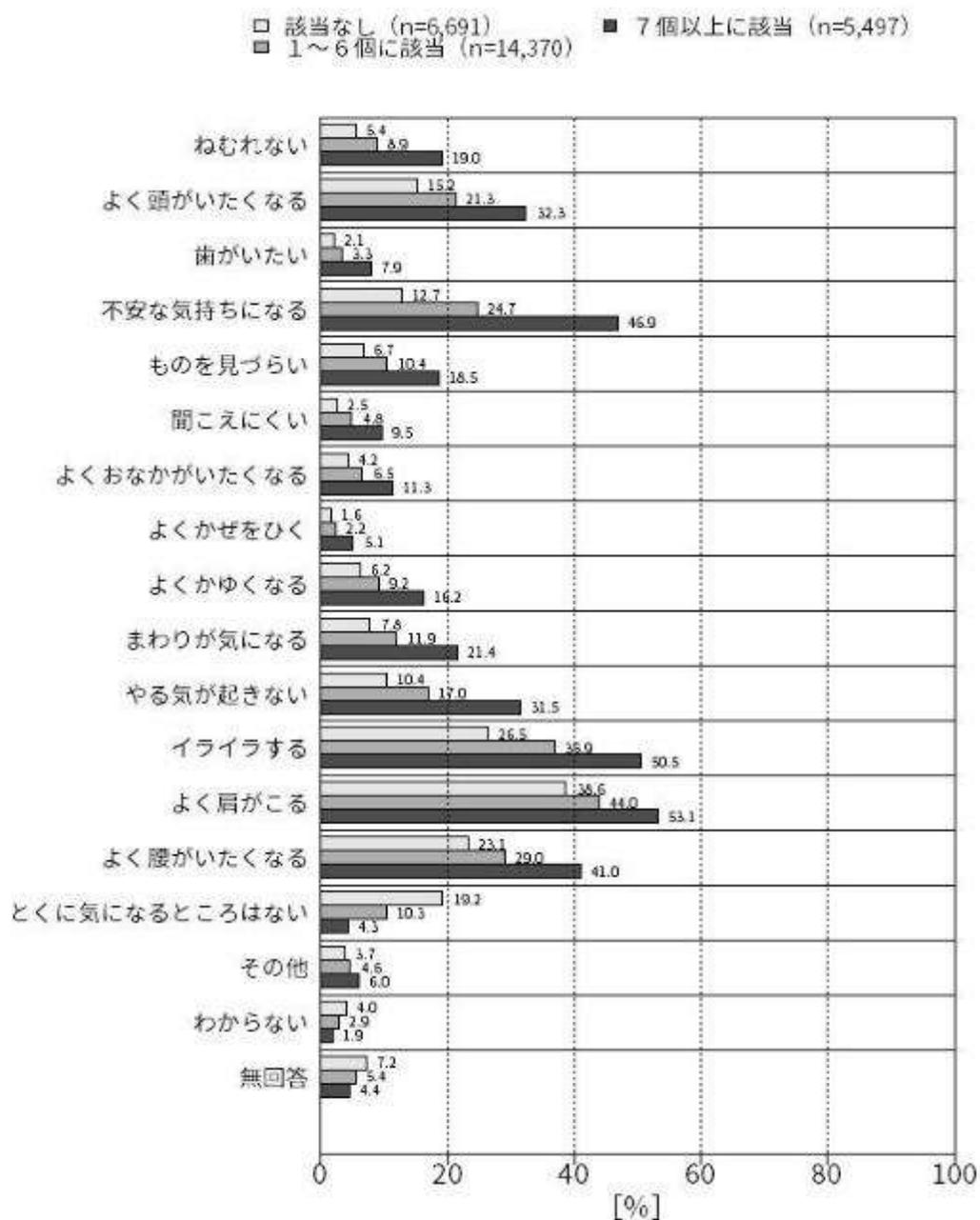
図 194. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること

困窮度別に自分の体や気持ちで気になること（保護者）を見ると、多くの項目において、困窮度が高まるにつれ、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目が高くなっている。特に困窮度 I 群に着目して、中央値以上群との差が大きい順に挙げると、「ねむれない」15.7%（中央値以上群に対して、3.0 倍）、「やる気が起きない」25.2%（2.7 倍）、「歯がいたい」3.9%（2.2 倍）となっている。つづいて、「イライラする」50.4%（2.0 倍）、「不安な気持ちになる」41.7%（1.9 倍）という影響もみられた。

経済的な理由による経験該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

(保護者票 問7 × 保護者票 問26)

<大阪市24区>



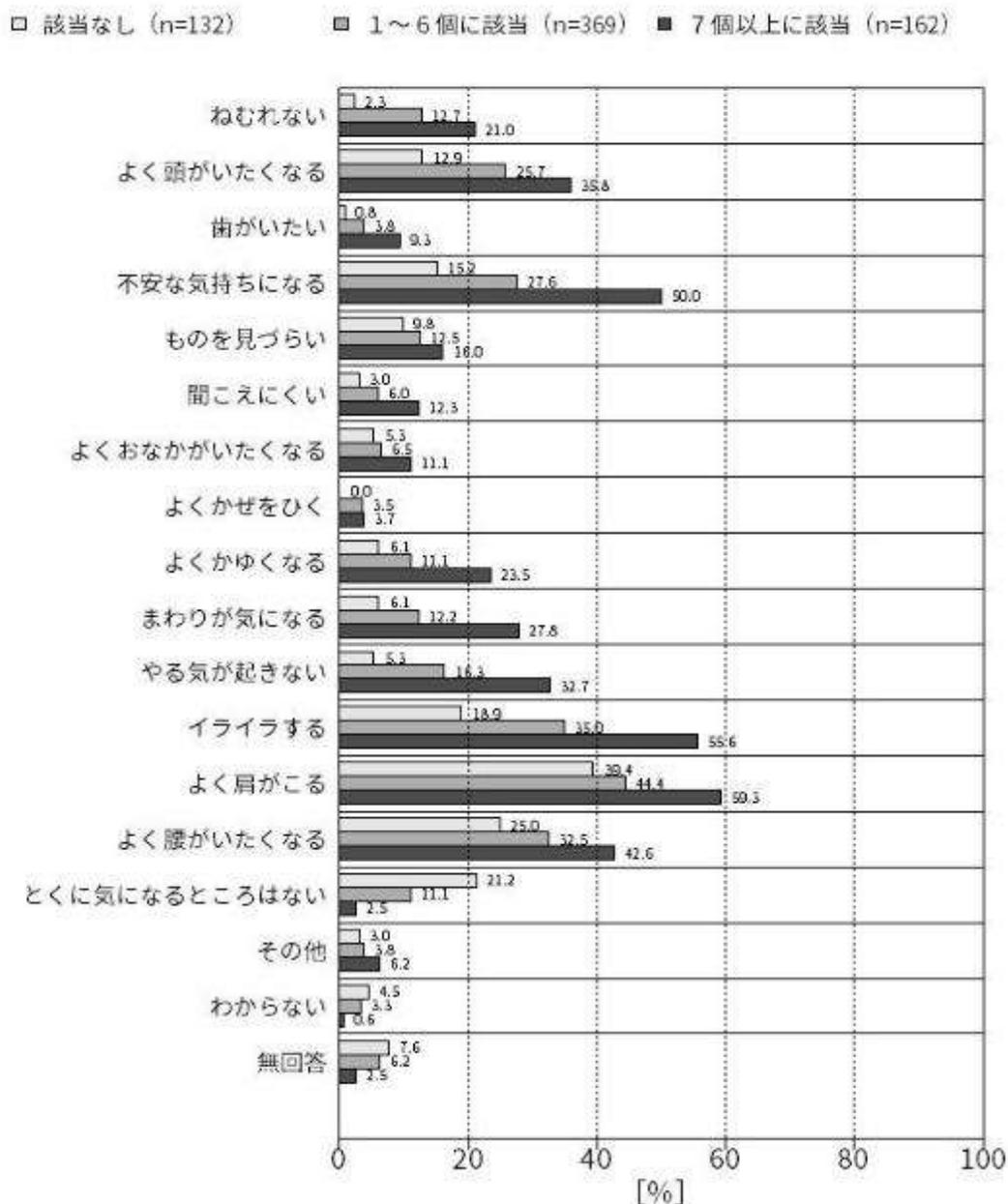
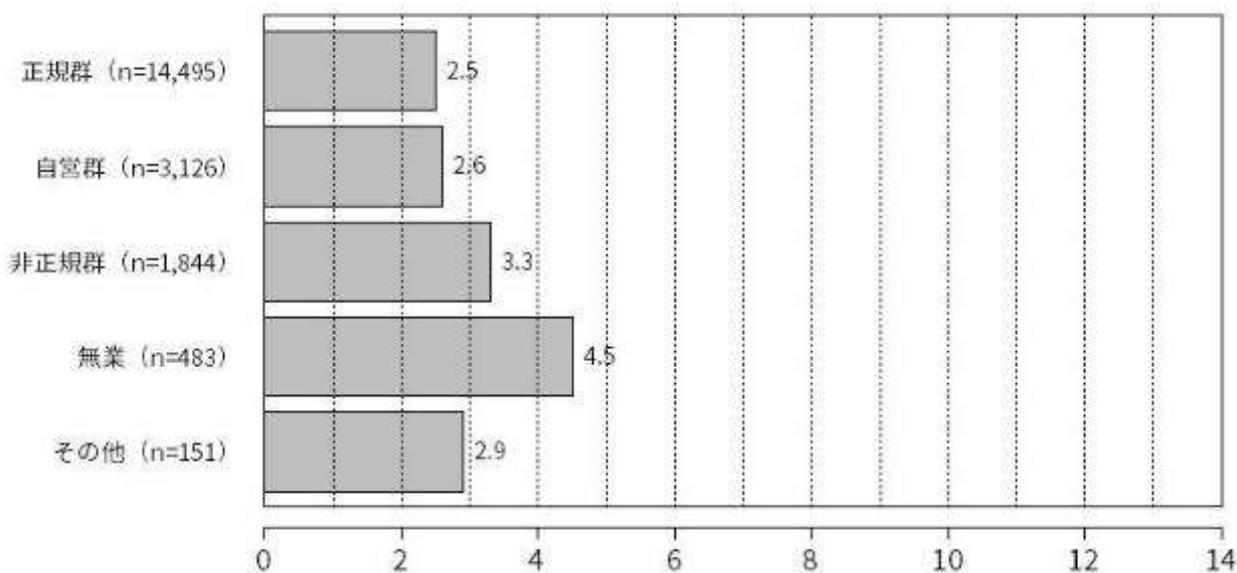


図 195. 経済的な理由による経験該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体や気持ちで気になることを見ると、「該当なし」と「7個以上に該当」と回答した人との差が大きい項目に着目しながら、「7個以上該当」群の数値を挙げると、「歯がいたい」9.3%（「該当なし」に対し11.6倍）、「ねむれない」21.0%（9.1倍）、「やる気が起きない」32.7%（6.2倍）となっている。さらに、「該当なし」と上記の項目ほどの差はないものの、「7個以上に該当」と回答した人では、「イライラする」55.6%（2.9倍）、「やる気が起きない」32.7%（6.2倍）など、ここでも心理的・精神的状況を示す項目での割合の高さが示された。

就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者票 問 26）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

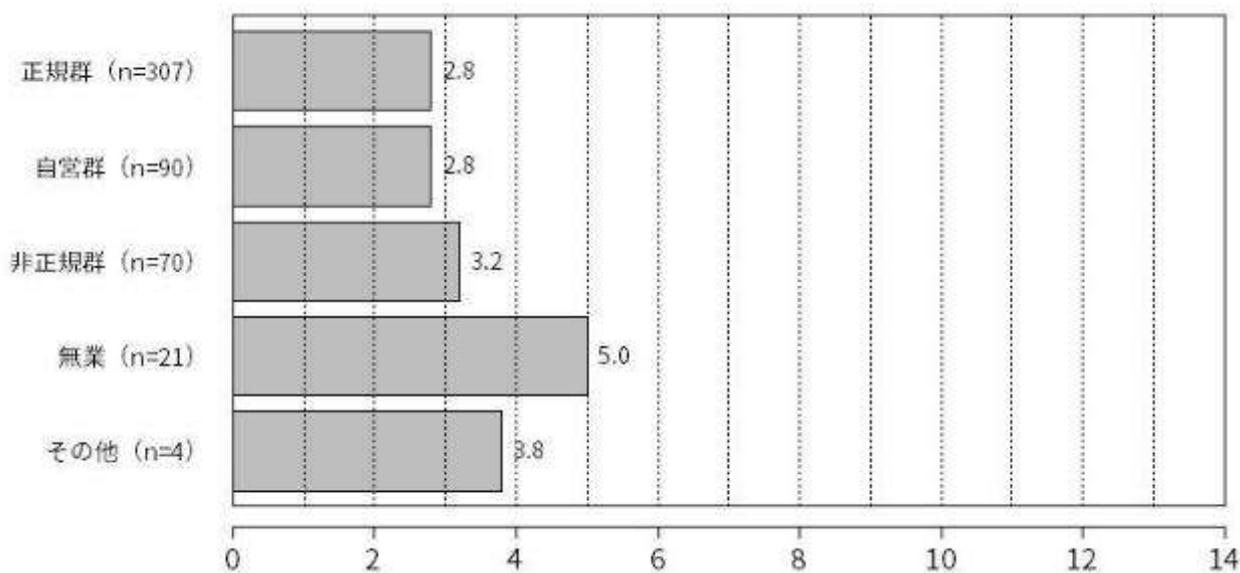


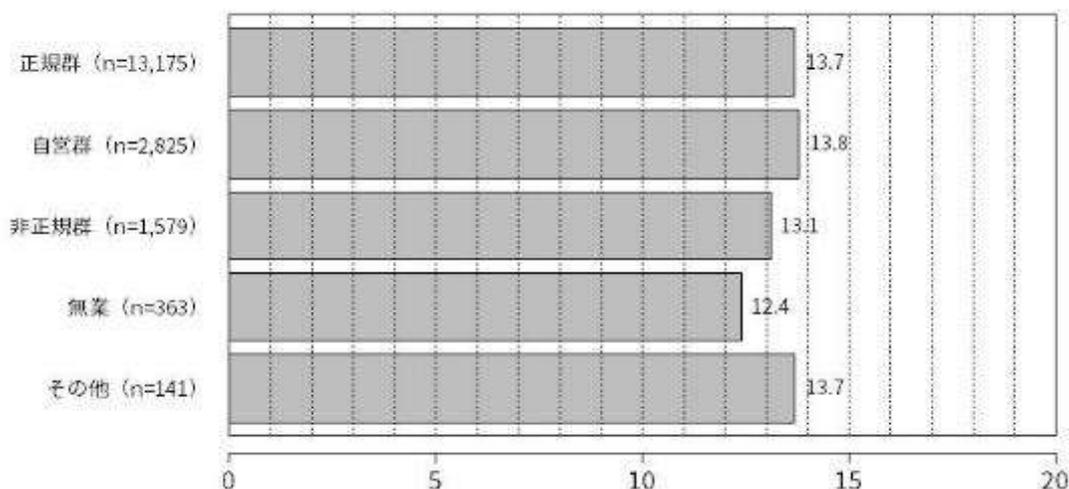
図 196. 就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

就労状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、「正規群」では 2.8 個、「自営業」では 2.8 個、「非正規群」では 3.2 個、「無業」群では 5.0 個であった。

就労状況別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー（保護者票 問 29①～⑤）

※成田・下仲・中里他（1995）の特性的自己効力感尺度より「自分が立てた目標や計画はうまくできる自信がある」、「はじめはうまくいかない事でも、できるまでやり続ける」、「人の集まりの中では、うまくふるまえない」、「私は自分から友達を作るのがうまい」、「人生で起きる問題の多くは自分では解決できない」の5項目を抽出して使用した。それぞれの項目について、「そう思う」～「思わない」までの4段階で評価させ、5項目の合計得点を大人のセルフ・エフィカシー得点とした。得点が高いほど、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高いことを表す。

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

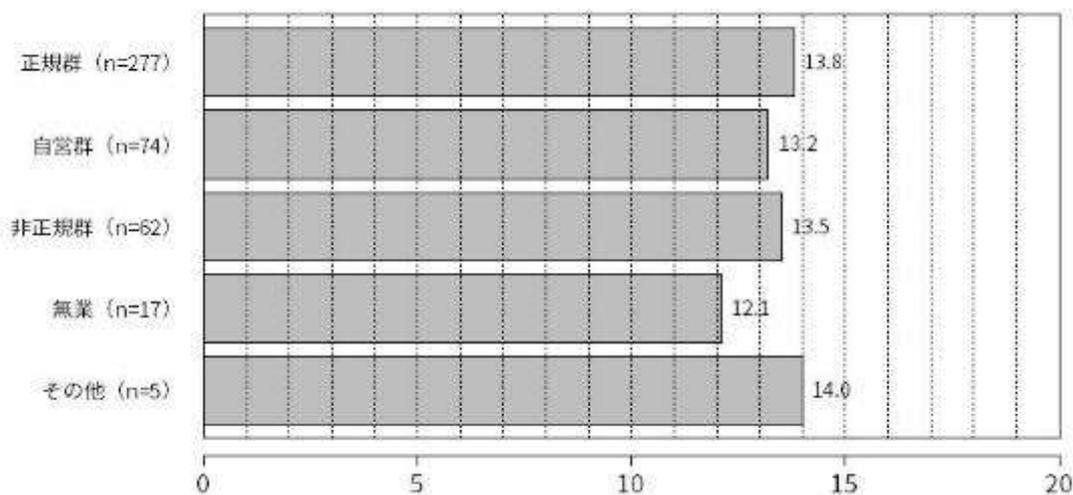


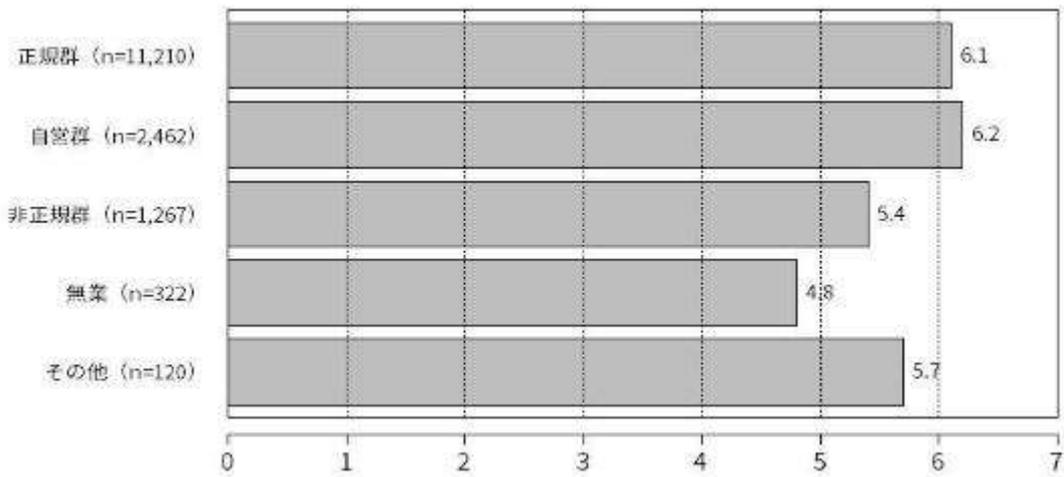
図 197. 就労状況別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー

就労状況別に保護者の自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、「正規群」では 13.8 点、「自営業」では 13.2 点、「非正規群」では 13.5 点、「無業」群では 12.1 点であった。

就労状況別に見た、支えてくれる人得点（保護者票 問 23①～⑦）

※「あなたを支え、手伝ってくれる人はいますか」という質問について、「心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人」「あなたの気持ちを察して思いやってくれる人」「趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人」「子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人」「子どもの学びや遊びを豊かにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）」「子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人」「留守を頼める人」の7項目を提示した。それぞれの人物が「いる」か「いない」かで評定させうえて、「いない」を0点、「いる」を1点とし、7項目の合計得点を「支えてくれる人得点」とした。得点が高いほど、身近に支えてくれる人が多く存在することを表す。

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

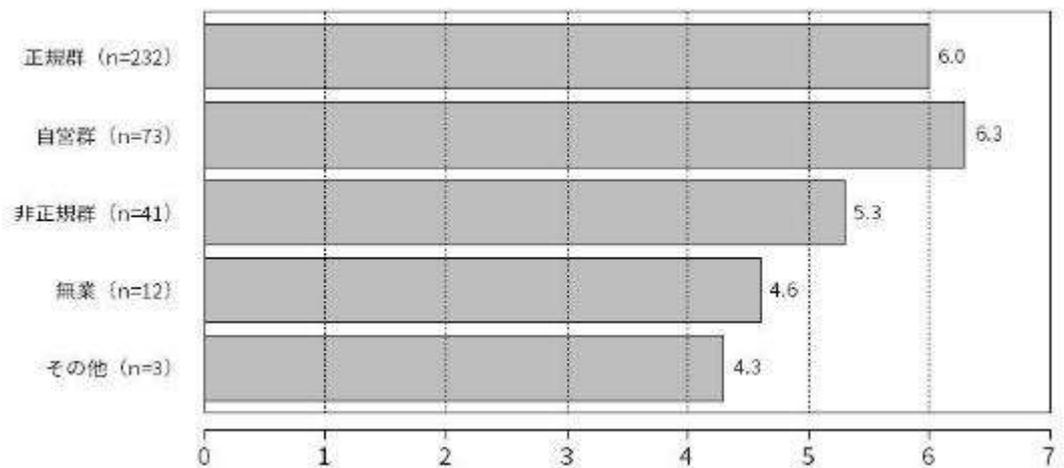
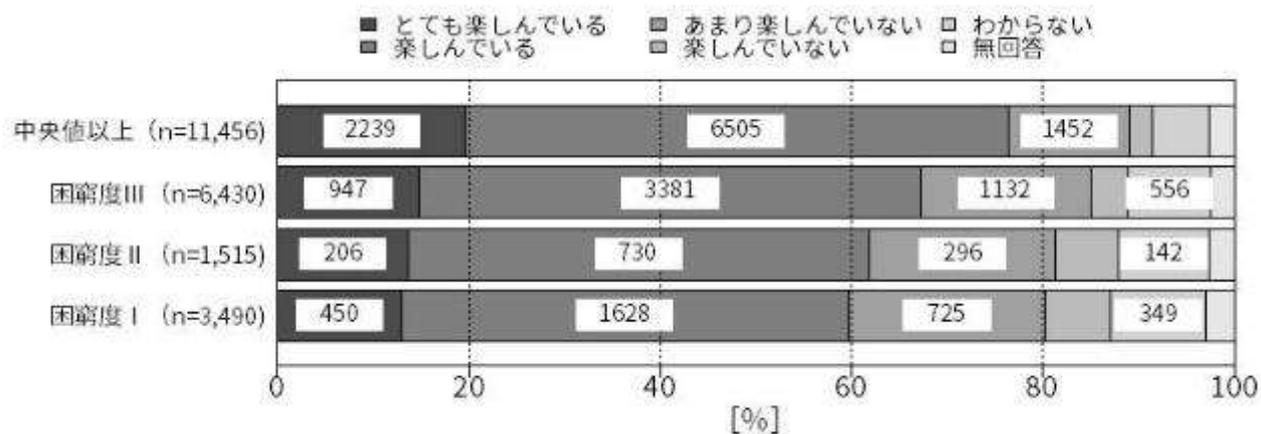


図 198. 就労状況別に見た、支えてくれる人得点

就労状況別に「支えてくれる人」の有無を得点化し、その平均値を見ると、「正規群」では6.0点、「自営群」では6.3点、「非正規群」で5.3点、「無業」で4.6点であった。

困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）（保護者票 問 25(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

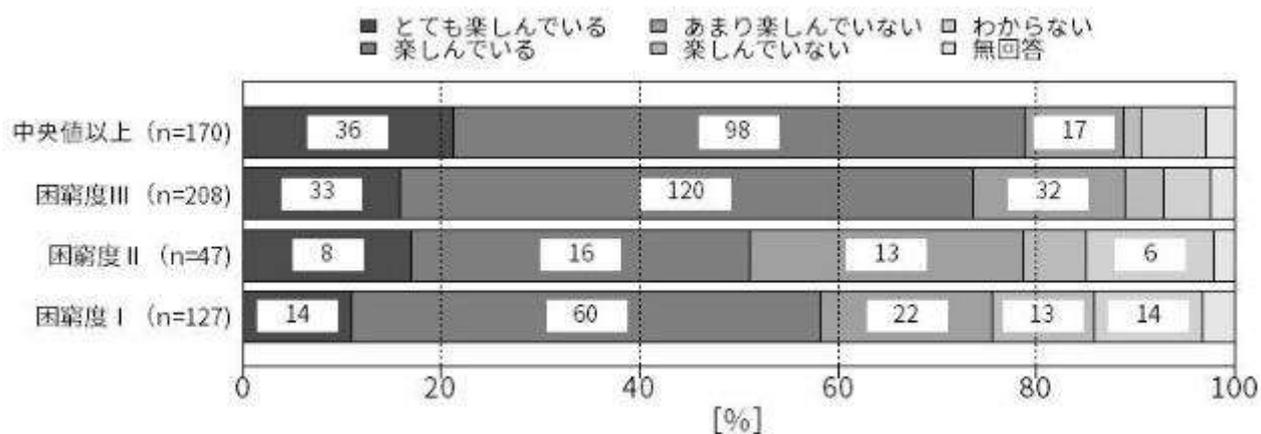
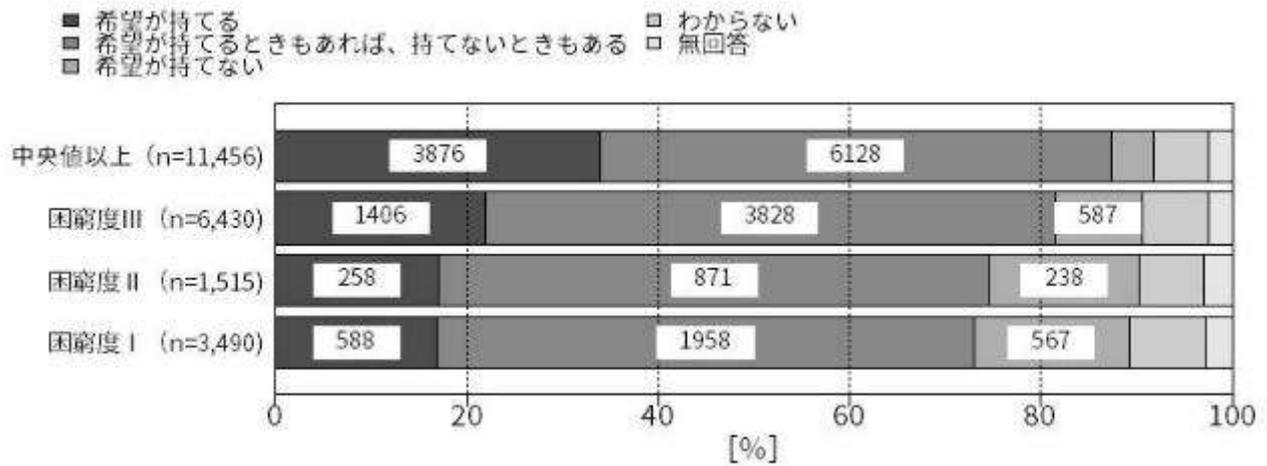


図 199. 困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

困窮度別に生活を楽しんでいるかを見ると、「とても楽しんでいる」「楽しんでいる」をあわせた割合では、中央値以上群が 78.8% であり、困窮度が高まるにつれて、「とても楽しんでいる」と「楽しんでいる」の割合が低くなる傾向にあった。逆に、「楽しんでいる」と回答した割合は、中央値以上群で 1.8%、困窮度Ⅲ群で 3.8%、困窮度Ⅱ群で 6.4%、困窮度Ⅰ群で 10.2%となった。

困窮度別に見た、心の状態（将来への希望）（保護者票 問 25 (2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

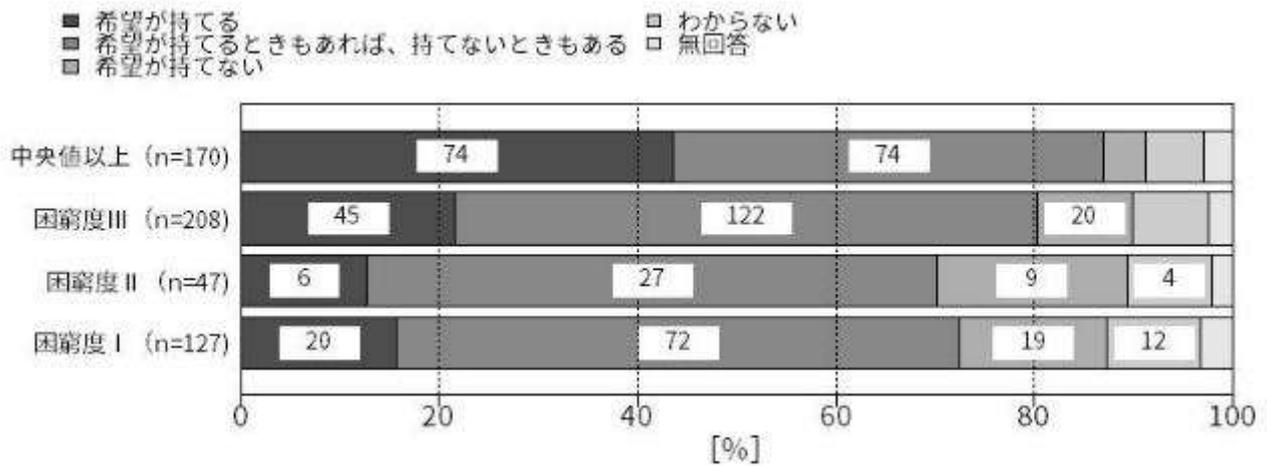
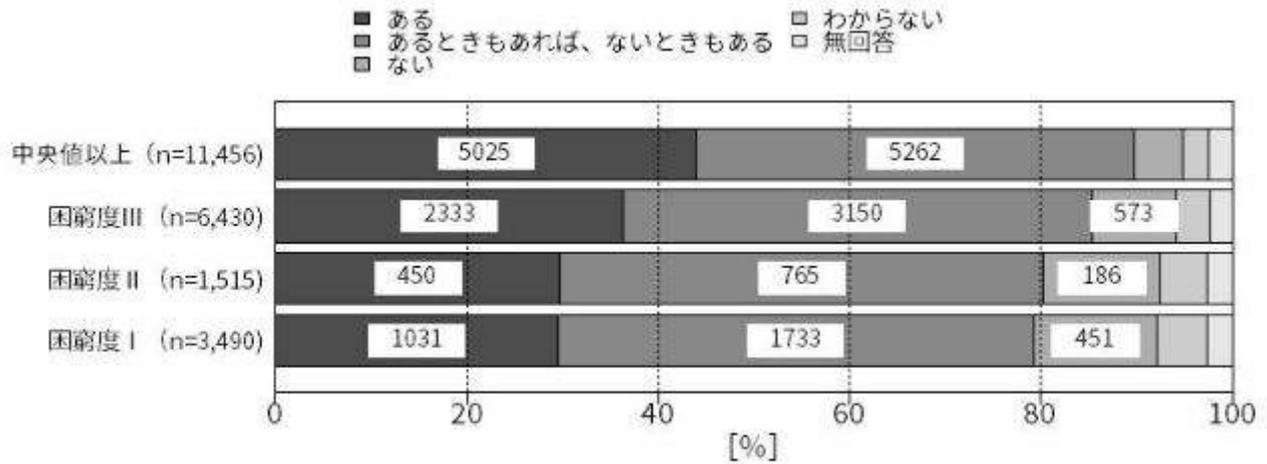


図 200. 困窮度別に見た、心の状態（将来への希望）

困窮度別に将来への希望を見ると、「希望が持てる」と回答する割合は中央値以上群では、43.5%であったのに対し、困窮度Ⅲ群では21.6%、困窮度Ⅱ群では12.8%、困窮度Ⅰ群では、15.7%という結果となった。

困窮度別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）（保護者票 問 25(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

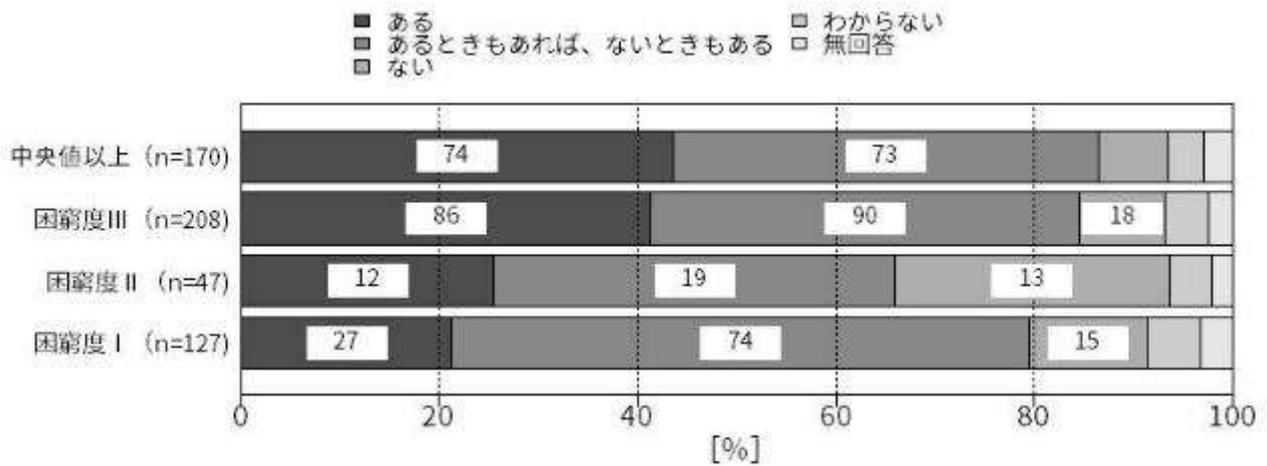
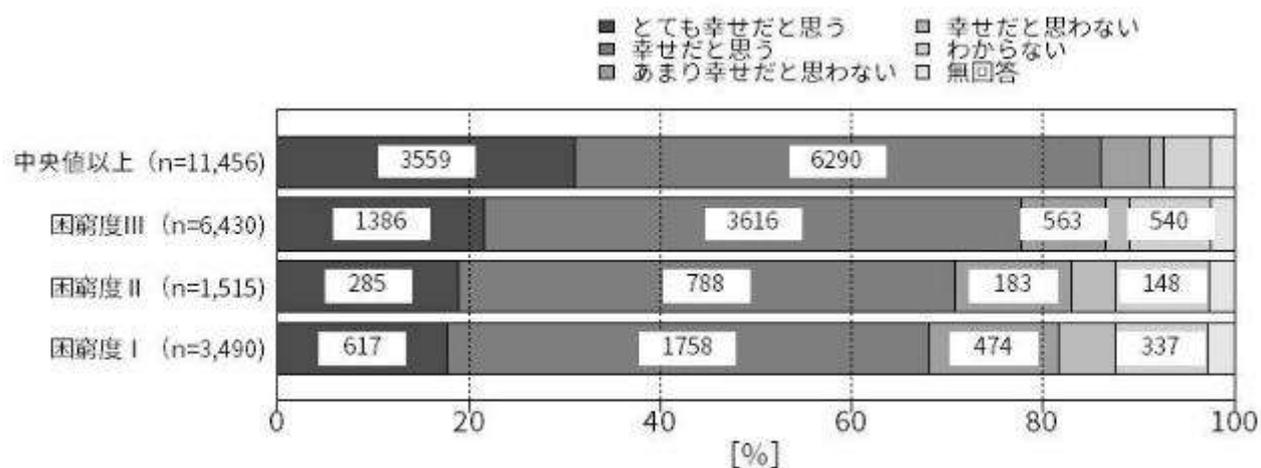


図 201. 困窮度別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

困窮度別にストレスを発散できるものについて、ストレスが発散できるものが「ない」という回答に着目すると、中央値以上群では 7.1 %、困窮度Ⅲ群 8.7 %、困窮度Ⅱ群 27.7 %、困窮度Ⅰ群 11.8 %となっている。

困窮度別に見た、心の状態（幸せだと思うか）（保護者票 問 25(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

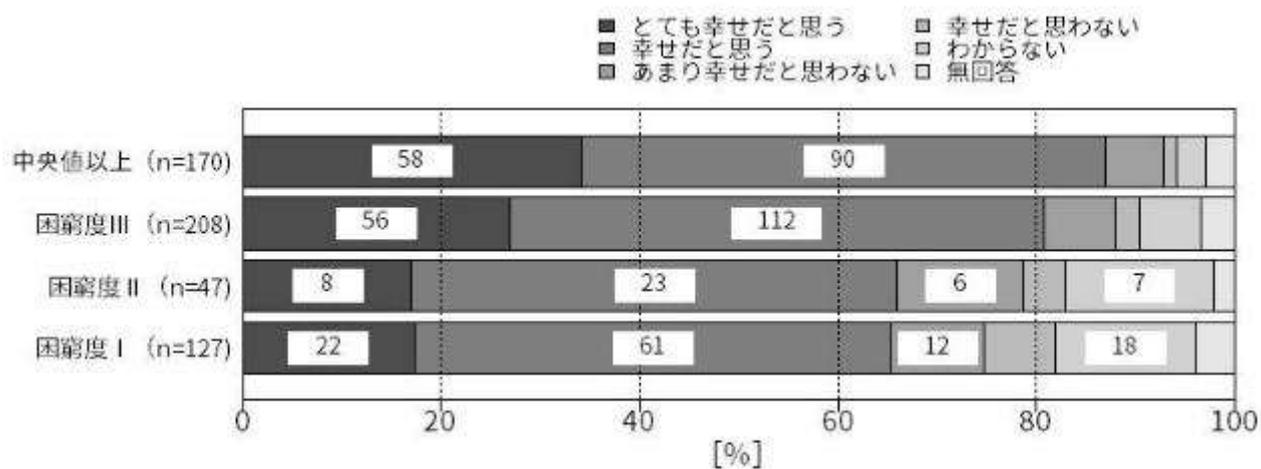
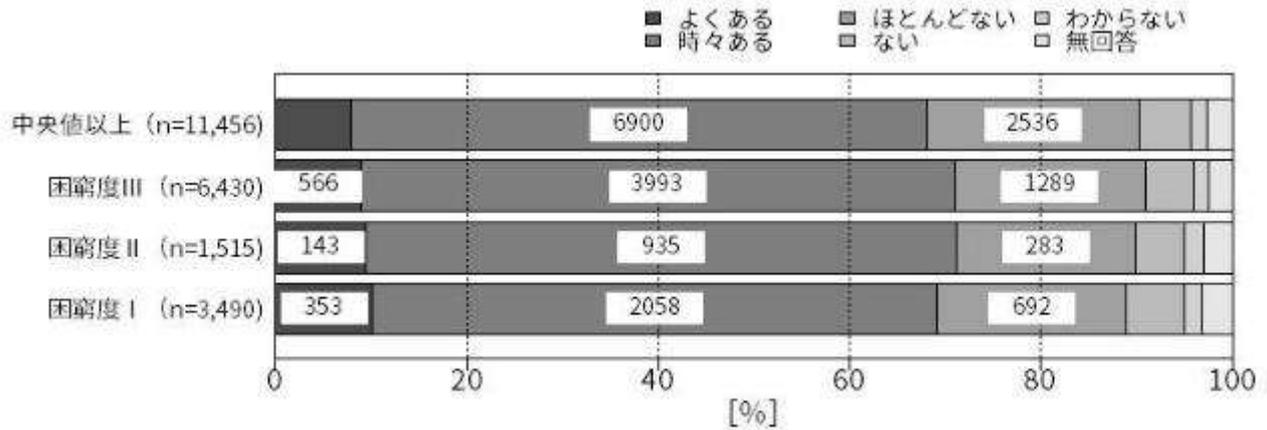


図 202. 困窮度別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

困窮度別に幸せだと思うかを見ると、「とても幸せと思う」「幸せだと思う」をあわせた割合は、困窮度が高まるにつれて低くなる傾向にある。逆に、「あまり幸せだと思わない」「幸せだと思わない」をあわせた割合が高くなり、中央値以上群では 7.1%で、困窮度Ⅲ群 9.6%、困窮度Ⅱ群 17.1%、困窮度Ⅰ群 16.5%となっている。

困窮度別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと
 (保護者票 問 27)

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

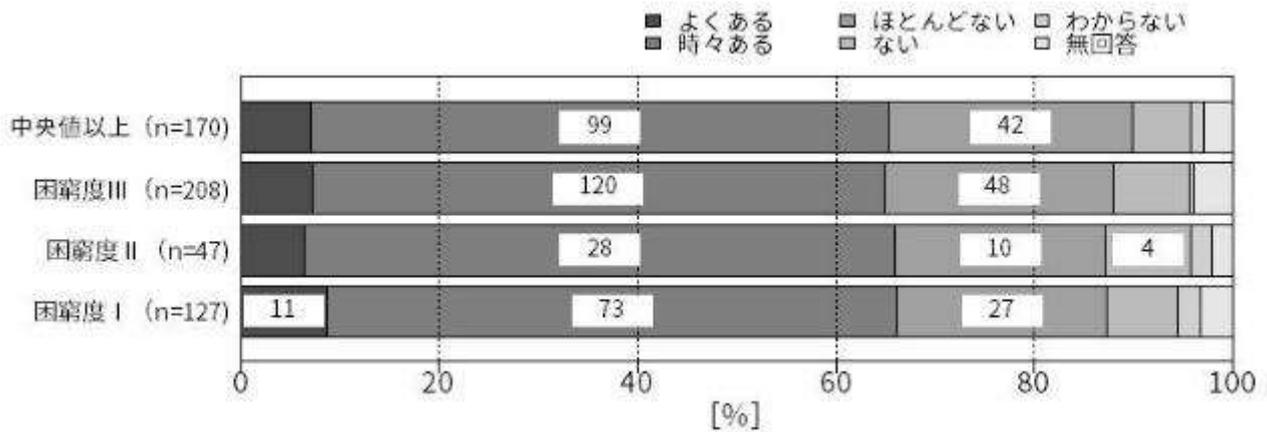
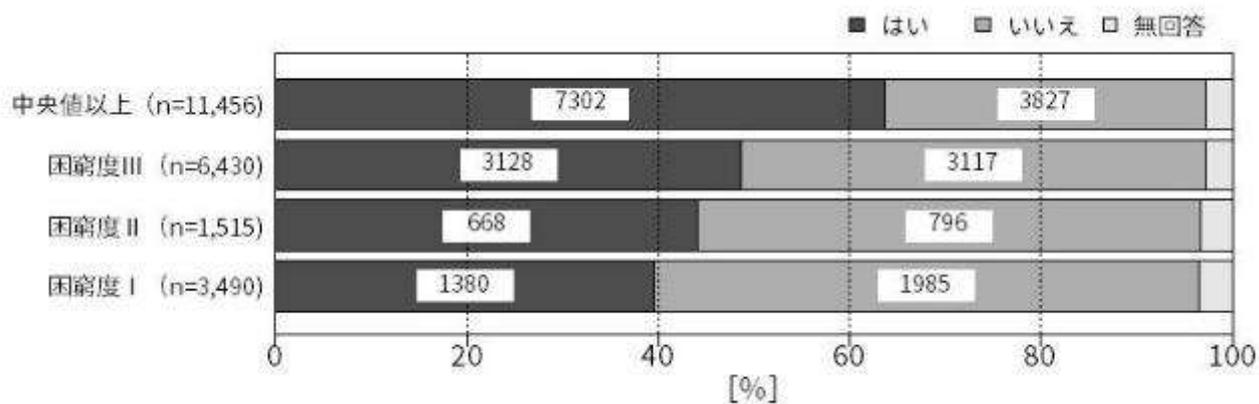


図 203. 困窮度別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと

困窮度別に不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことを見ると、中央値以上群では、「よくある」「時々ある」あわせて 65.3 %であったのに対し、困窮度Ⅰ群では 66.2 %である。

困窮度別に見た、定期的な健康診断の受診（保護者票 問 28）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

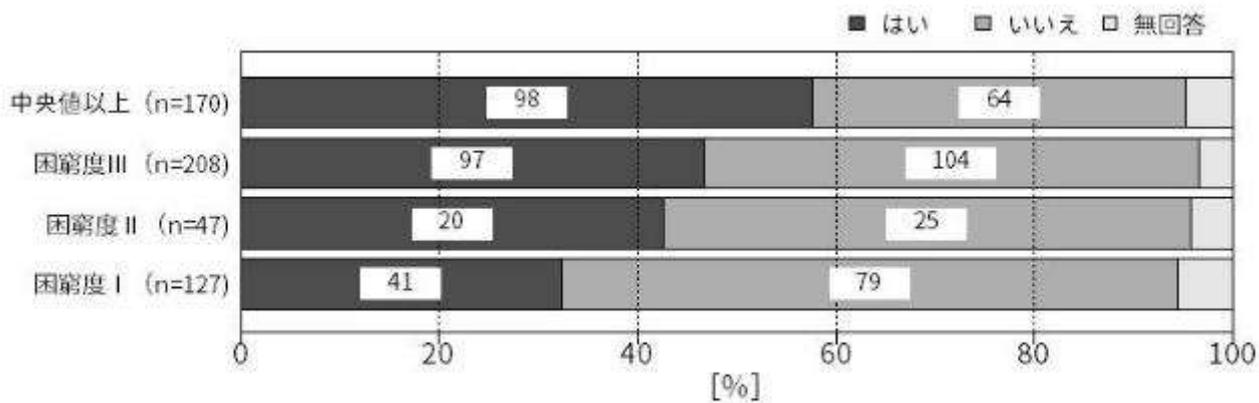


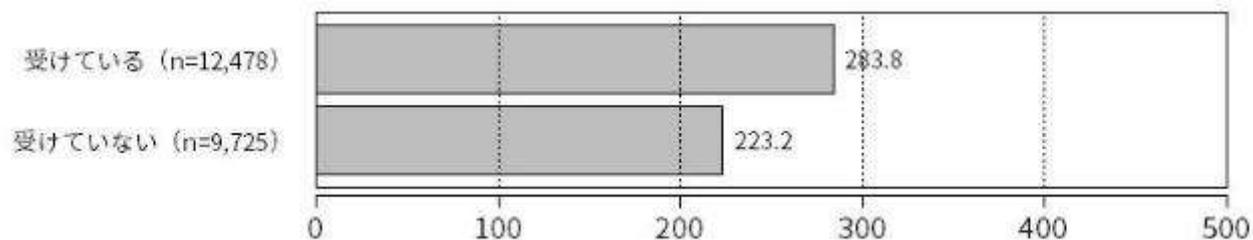
図 204. 困窮度別に見た、定期的な健康診断の受診

困窮度別に保護者の定期的な健康診断の受診を見ると、「受診あり」の回答の割合は中央値以上群が 57.6%であり、困窮度Ⅰ群では 32.3%であった。

定期的な健康診断の受診別に見た、等価可処分所得の平均値（単位：万円）

（保護者票 問 28 × 保護者票 問 7）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

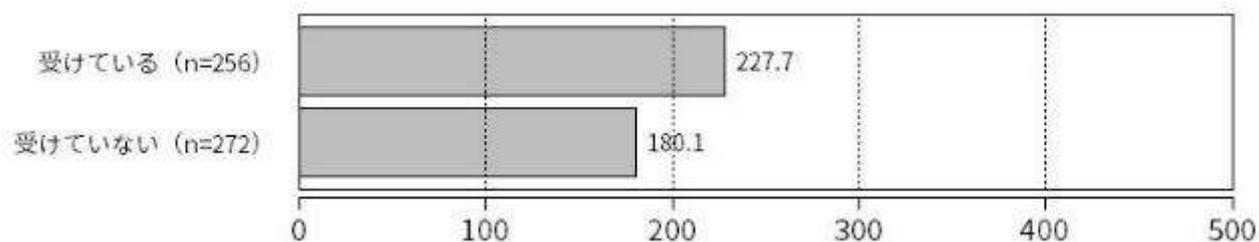


図 205. 定期的な健康診断の受診別に見た、等価可処分所得の平均値（単位：万円）

定期的な健康診断の受診別に等価の可処分所得額を算出すると、「受診あり」では 227.7 万円、「受診なし」では 180.1 万円と等価可処分所得について差が見られた。

<健康に関する考察>

困窮度別に朝食の頻度をみると、困窮度が深刻化するほど、「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べる頻度が減る傾向が見られた。とくに、困窮度Ⅱ群で70.2%（西成区5歳児（「必ず食べる」）：87.5%、大阪市全体：82.9%）、困窮度Ⅰ群で69.3%（西成区5歳児：85.9%、大阪市全体：78.8%）と低くなる。困窮度は、保護者の就労状況を反映していると想定され、正規群では、82.0%（大阪市全体：88.4%）が「毎日またはほとんど毎日」と回答しているのに対して、非正規群では、66.7%（大阪市全体：78.5%）にと、15.3ポイントの差がついている（大阪市全体：9.9ポイント）。

また、朝食および休日の昼食の頻度が高い人のほうが子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）がわずかではあるが高いが示された。また、朝食の頻度が高いほうが、子どもとよく会話をする割合が高かったが、平日一緒にいる時間で違いは見られなかった。

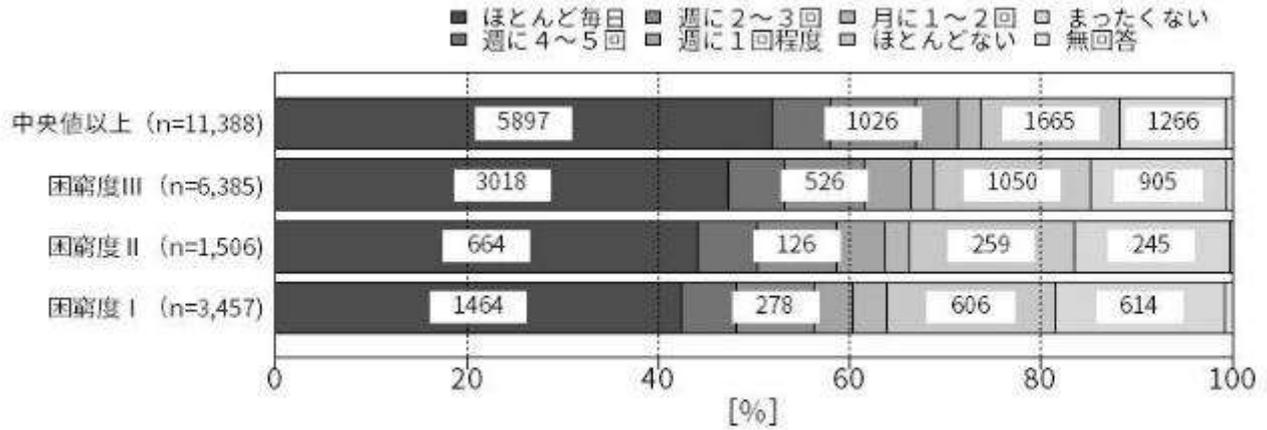
子どもの心身の状況について、まず困窮度Ⅰ群に注目し、高い割合を示した項目を挙げる。割合が高い順に、「イライラする」（30.7%、大阪市全体：27.6%）、「やる気が起きない」（25.2%、大阪市全体：27.2%）、「不安な気持ちになる」（15.7%、大阪市全体：19.7%）、「まわりが気になる」（23.6%、大阪市全体：19.8%）、など、心理的・精神的症状の高さが特徴的である。項目によっては、困窮度Ⅱ群が最も高い項目「イライラする」（42.6%）もあり、中央値以上群、困窮度Ⅲ群とほとんど変わらない、あるいは、中央値以上群、困窮度Ⅲ群のほうが高い割合を示す項目もあった。中央値以上群でも約3割は、「イライラする」「やる気が起きない」と回答しており、子ども全体のこうした心理的・精神的症状が学習状況に影響を与えていることが推測される。困窮度が高まるにつれて心身の自覚症状が悪化する項目は確かにあるものの、困窮度が高い群の子どものみならず、広範な層を対象とした一般施策としての支援メニューが求められている可能性が示された。経済的な理由による経験該当数別にみると、該当数が多くなるにつれて、心身の自覚症状が悪化する結果となっている。

保護者の心身の状況については、困窮度が高まるにつれて保護者の心身の状況が悪化する項目が多く見られた。「不安な気持ちになる」（53.2%）、「よく肩がこる」（55.3%）、「よく腰がいたくなる」（51.1%）の項目では、困窮度Ⅱ群が最も高くなっているのが特徴的である。困窮度Ⅰ群に着目して、多い順に挙げると、「よく肩がこる」50.4%（大阪市全体47.1%）、「イライラする」50.4%（42.5%）、「不安な気持ちになる」41.7%（大阪市全体：21.3%）となっている。こうした不安感の高さが将来への希望の低さ、幸福度の低さにつながっていると推測される。保護者の就労状況が非正規群、無業など不安定化するにつれ、心身の気になることの項目数が増えることも明らかとなった。定期的に健康診断を受診している割合は、就労状況が不安定化するにつれ、低くなっている。中央値以上群では、5割が定期的に健康診断を受けているが、それ以外の群では、4割台にとどまった。健康診断を容易に受診できる雇用環境、心理的・時間的余裕などが受診率の差に現れていると想定される。

3-4. 家庭生活・学習

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）
 （子ども票 問10①）

<大阪市24区>



<大阪市西成区>

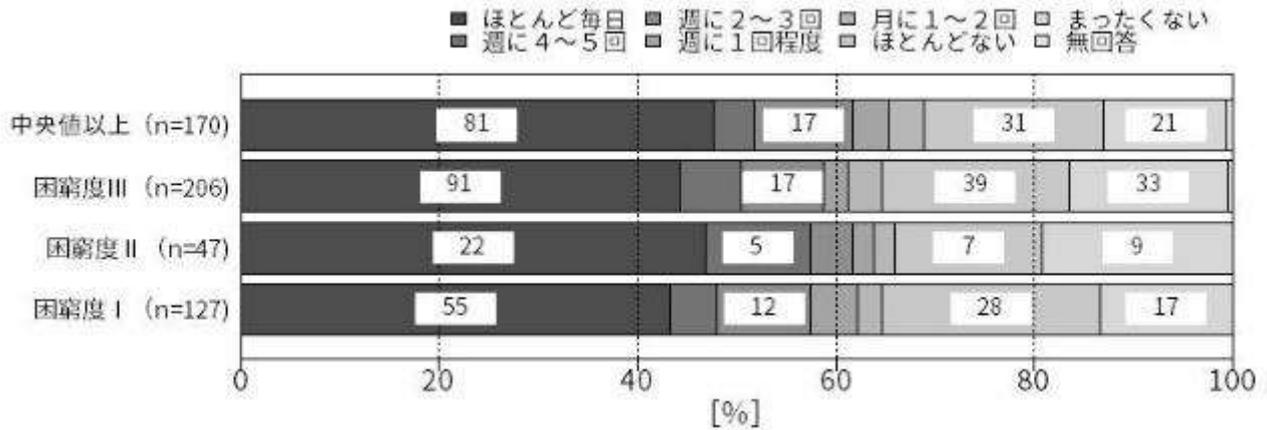


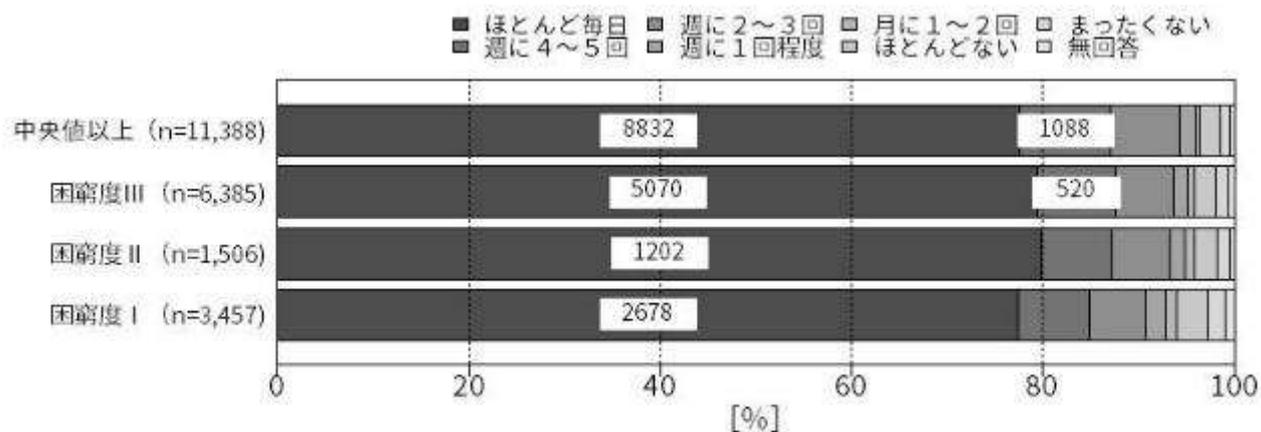
図 206. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくない」または「ほとんどない」と回答した人の割合が高くなる傾向にある。困窮度Ⅰ群では、「まったくない」が13.4%、「ほとんどない」が22.0%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）

（子ども票 問10②）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

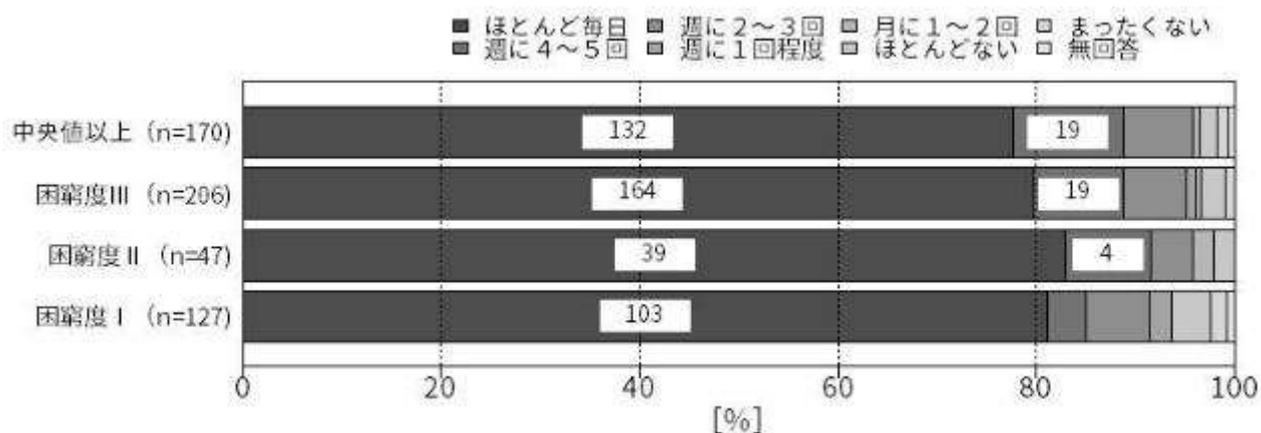
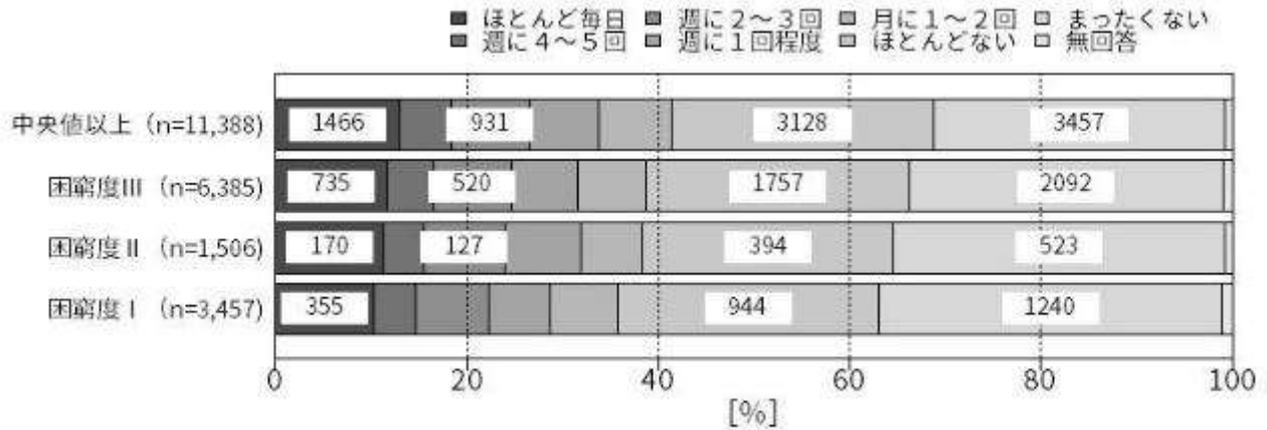


図 207. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）

保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）について、困窮度による大きな差はみられない。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）
（子ども票 問10⑤）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

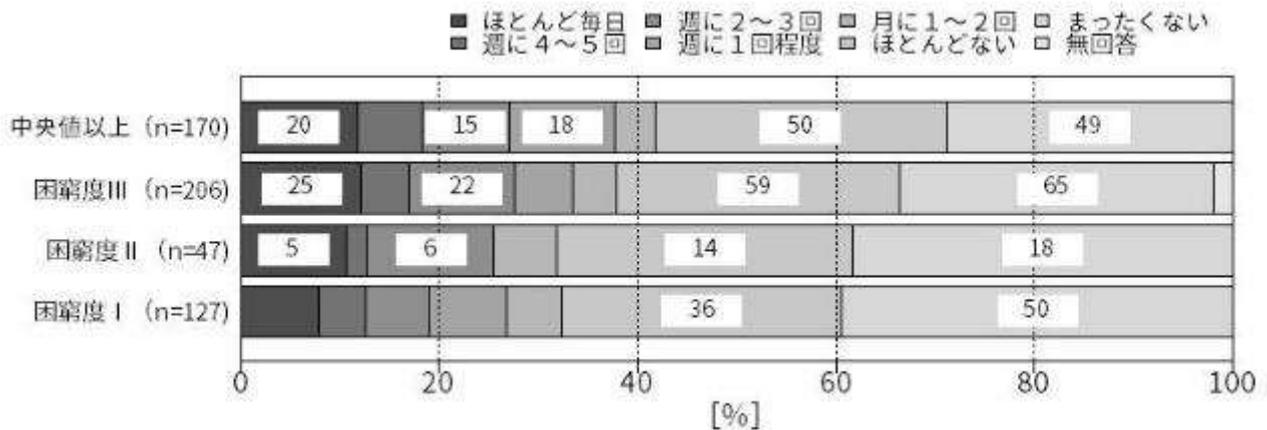
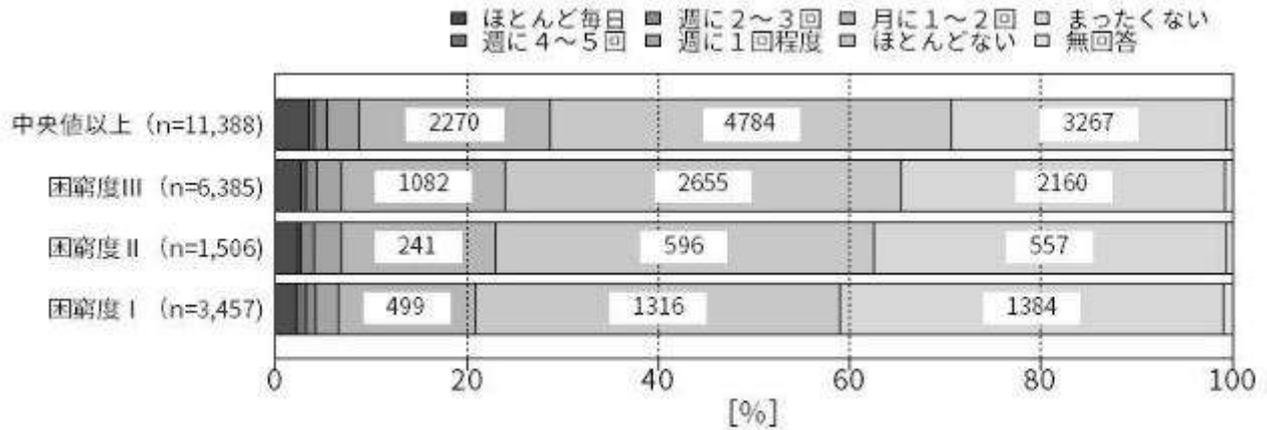


図 208. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくない」と回答した人の割合が高くなる傾向にある。困窮度Ⅰ群では、「まったくない」が39.4%、「ほとんどない」が28.3%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）
 （子ども票 問 10⑨）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

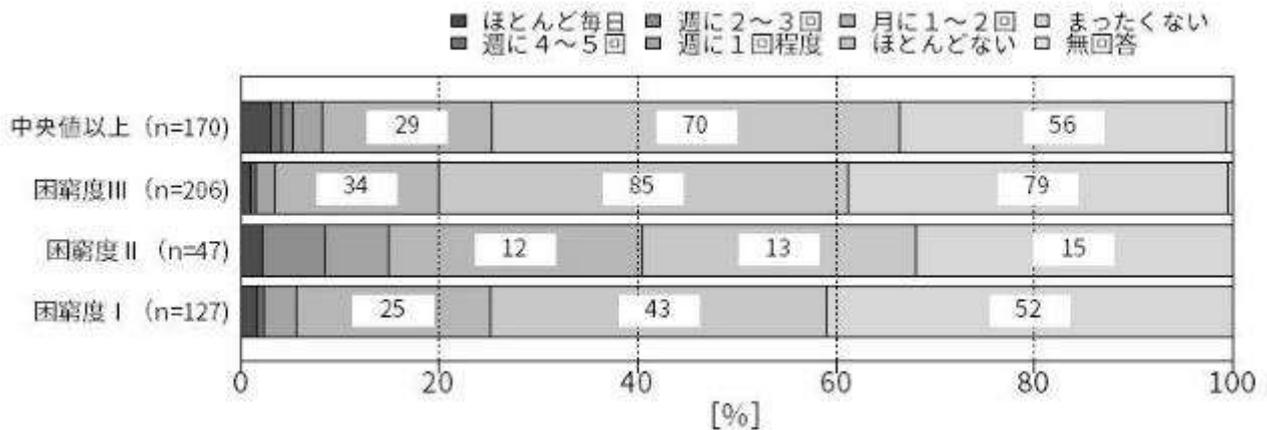
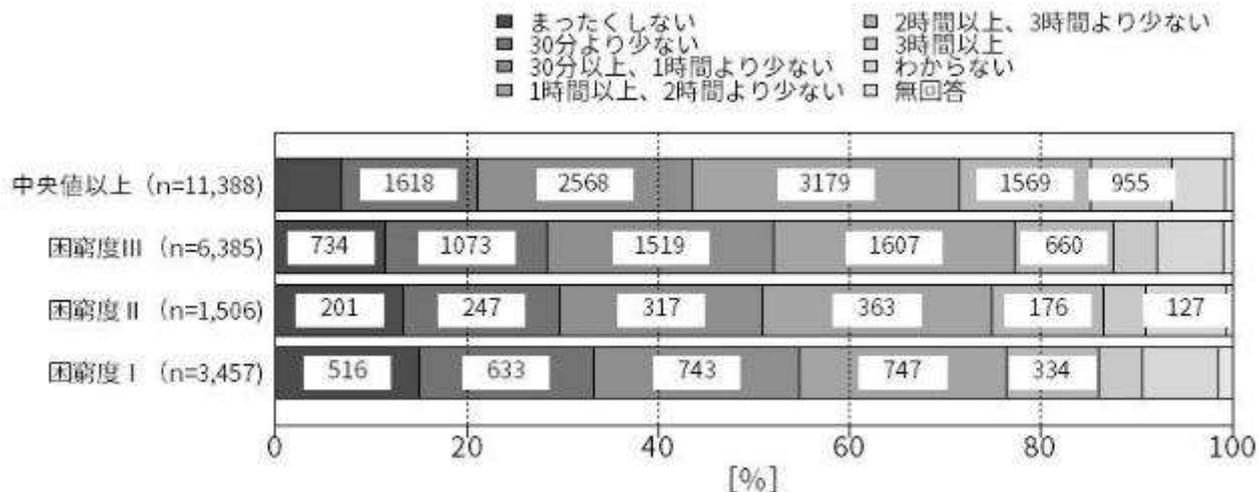


図 209. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくない」と回答した人の割合が高くなる傾向にある。困窮度Ⅰ群では、「まったくない」と回答した人が40.9%、「ほとんどない」と回答した人が33.9%であった。

困窮度別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票 問 14）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

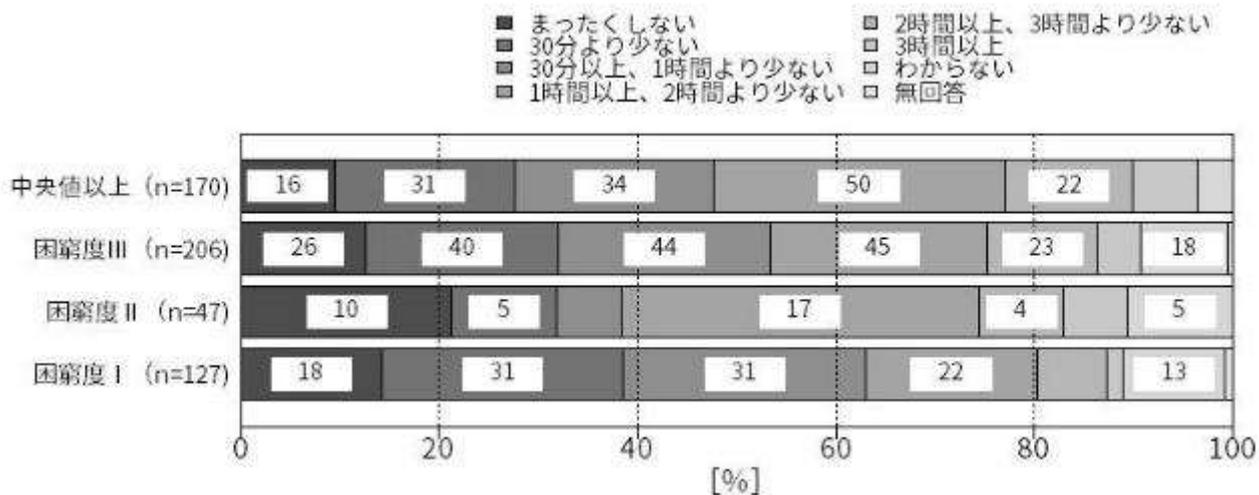
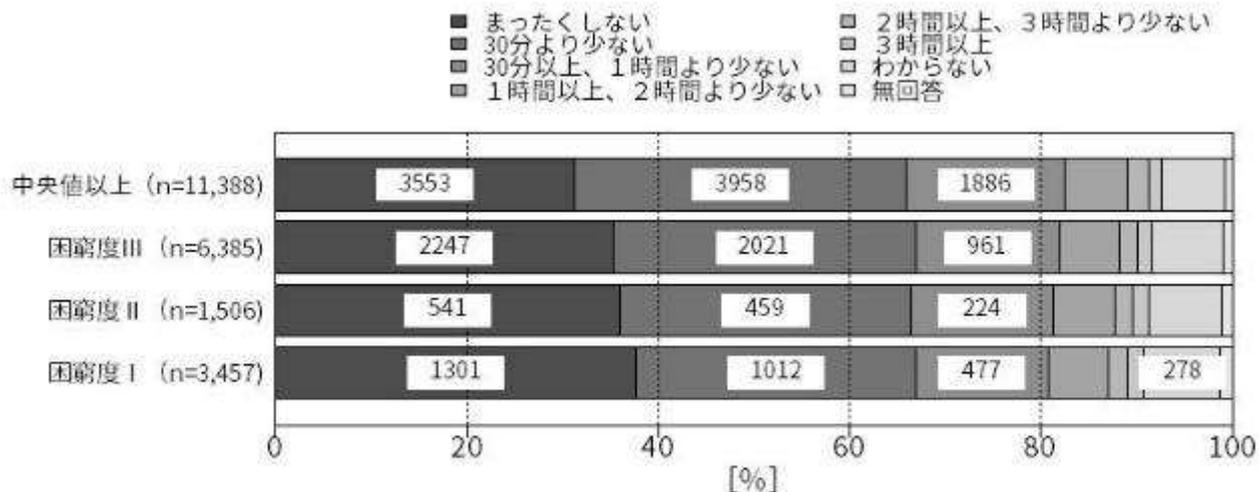


図 210. 困窮度別に見た、授業以外の勉強時間

困窮度別の授業以外の勉強時間を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくしない」・「30分より少ない」と回答した人の割合が高くなっている傾向にある。困窮度Ⅰ群では、「まったくしない」と回答した人は14.2%であった。

困窮度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票 問 19）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

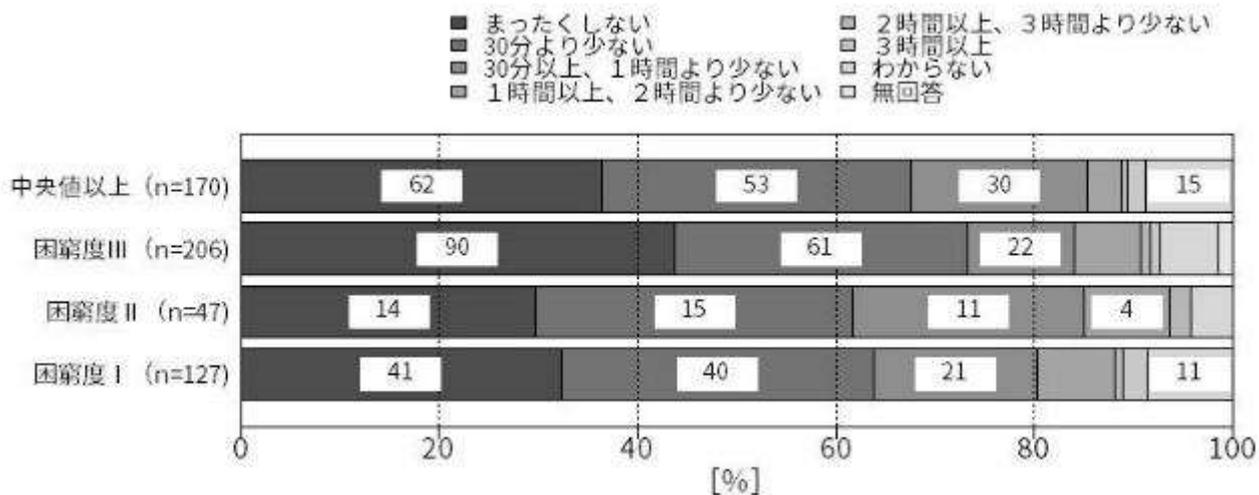
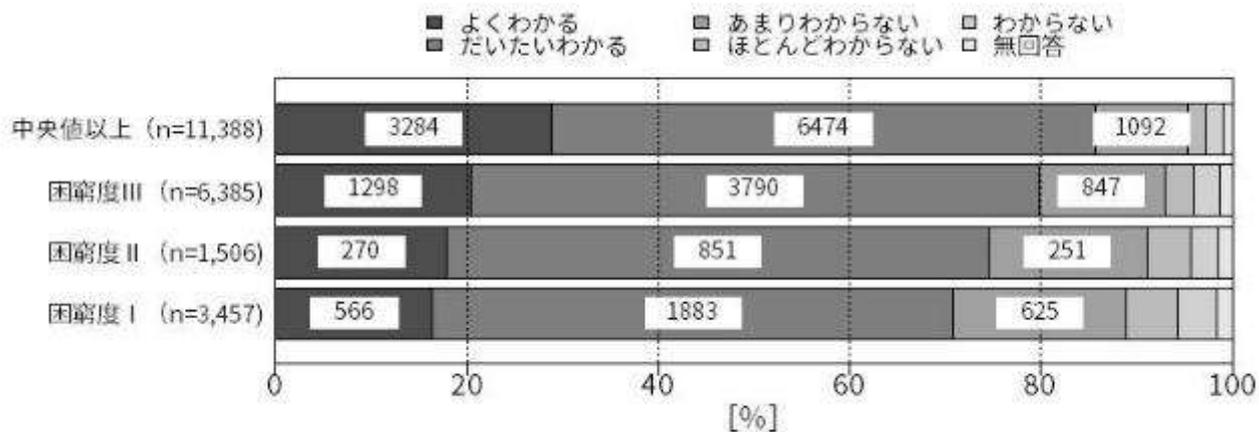


図 211. 困窮度別に見た、授業以外の読書時間

困窮度別の読書以外の勉強時間について、困窮度による大きな差はみられない。

困窮度別に見た、学習理解度（子ども票 問 18）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

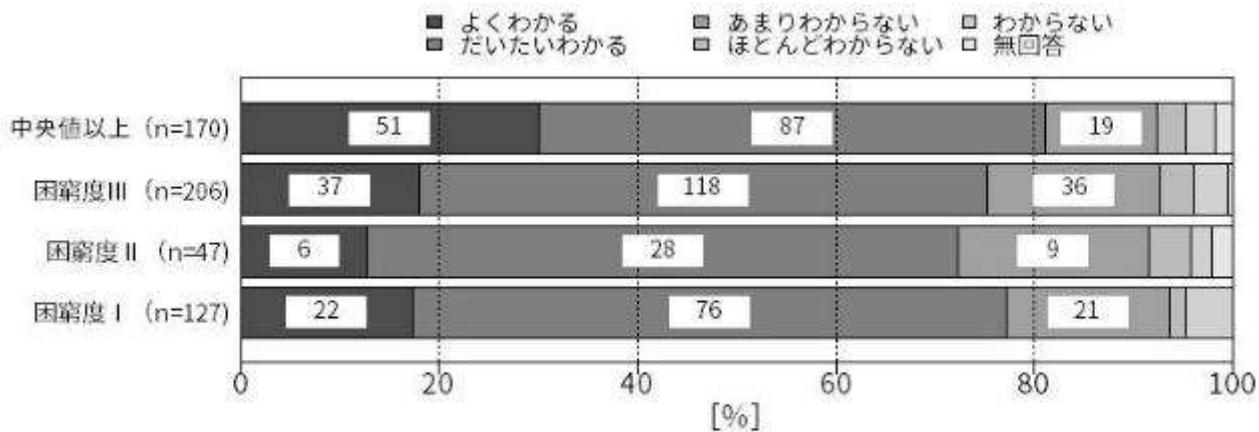
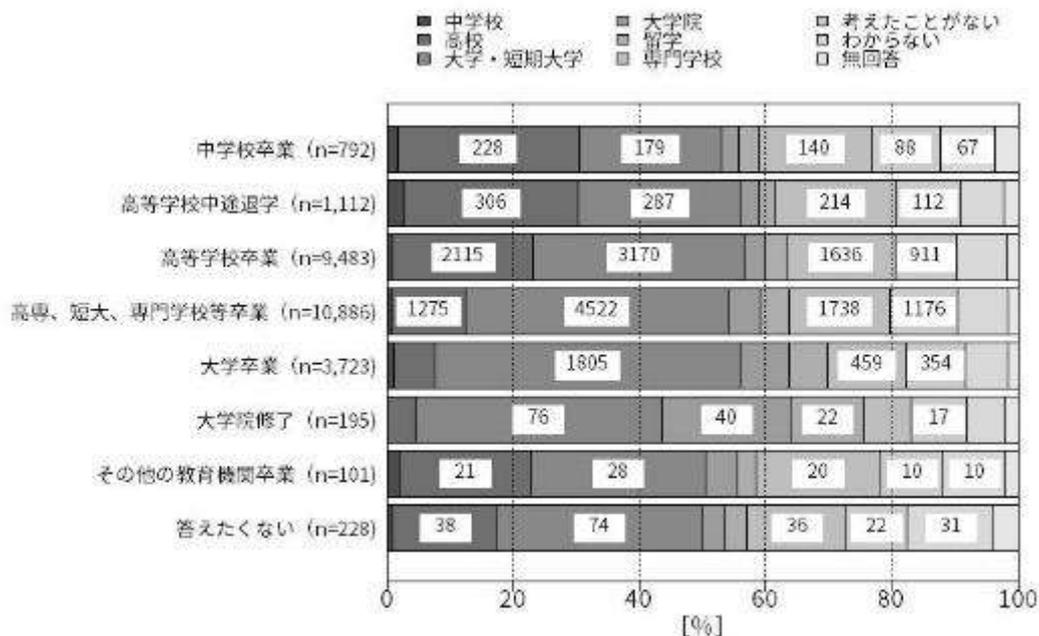


図 212. 困窮度別に見た、学習理解度

困窮度別の学習理解度を見ると、困窮度が高まるにつれ、「よくわかる」と回答した人の割合が低くなっている傾向にある。困窮度Ⅰ群では、「よくわかる」と回答したのは17.3%で、「だいたいわかる」は59.8%であった。

母親の最終学歴別に見た、希望する進学先（保護者票 問8 × 子ども票 問27）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

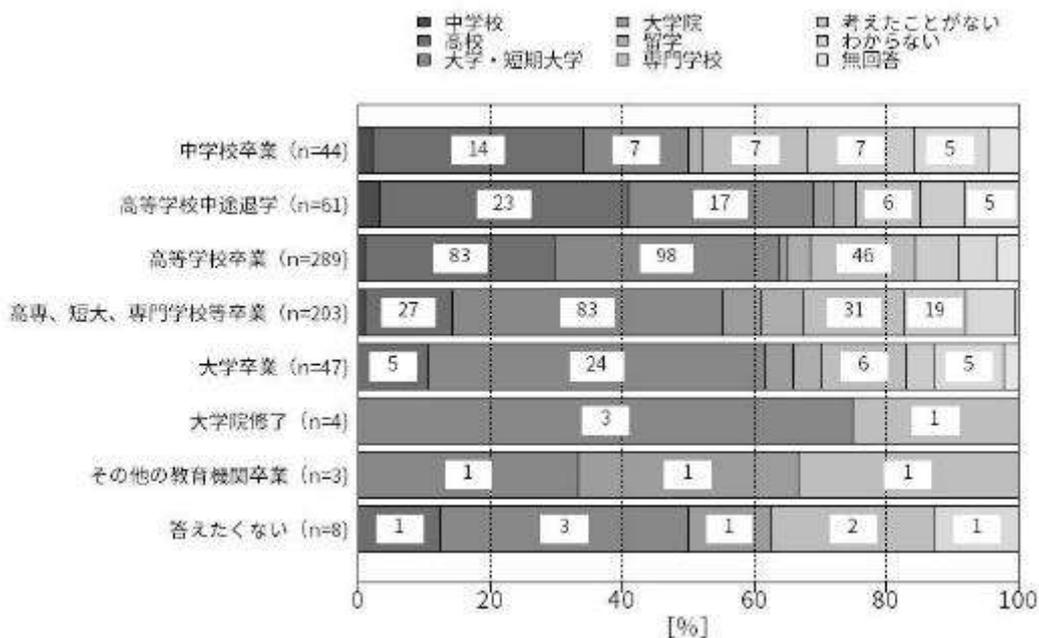
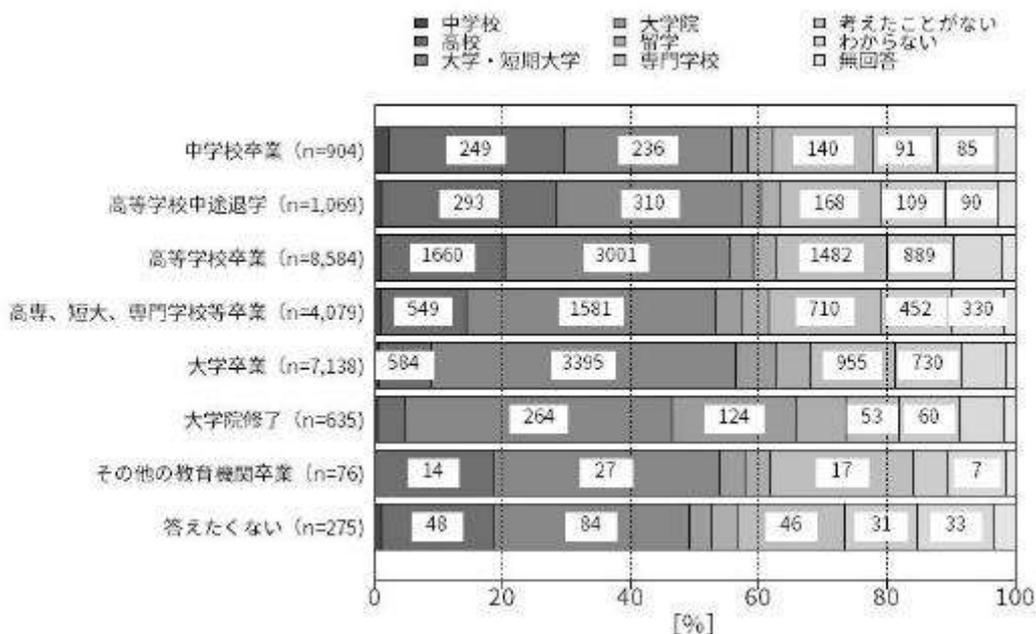


図 213. 母親の最終学歴別に見た、希望する進学先

母親の最終学歴別に子どもの希望する進学先を見ると、母親が中卒または高校中退者では、「中学校」または「高校」までと回答した子どもの割合が高くなっている傾向にある。

父親の最終学歴別に見た、希望する進学先（保護者票 問8 × 子ども票 問27）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

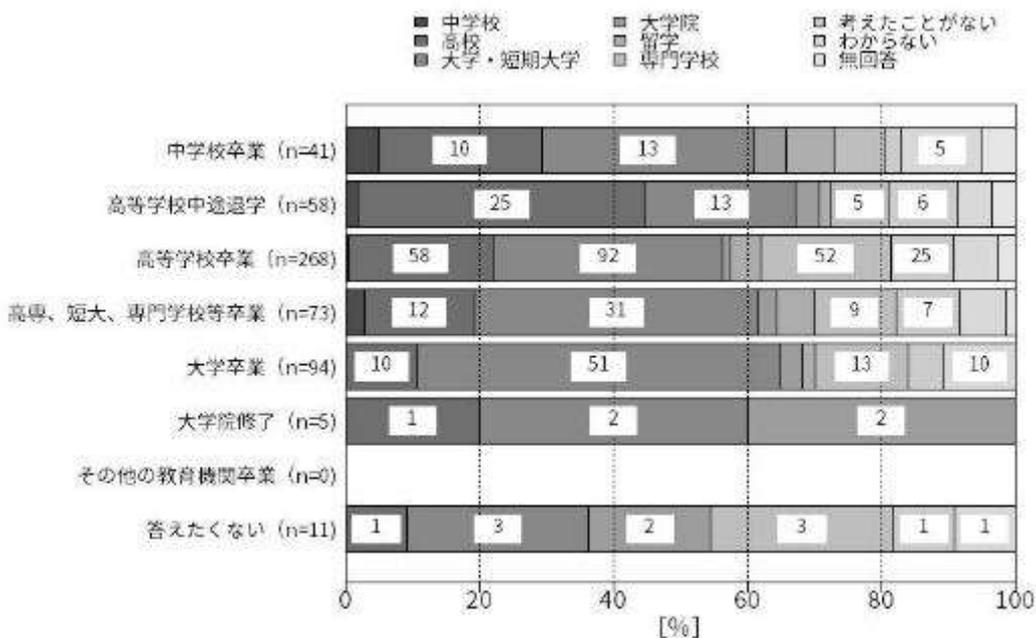
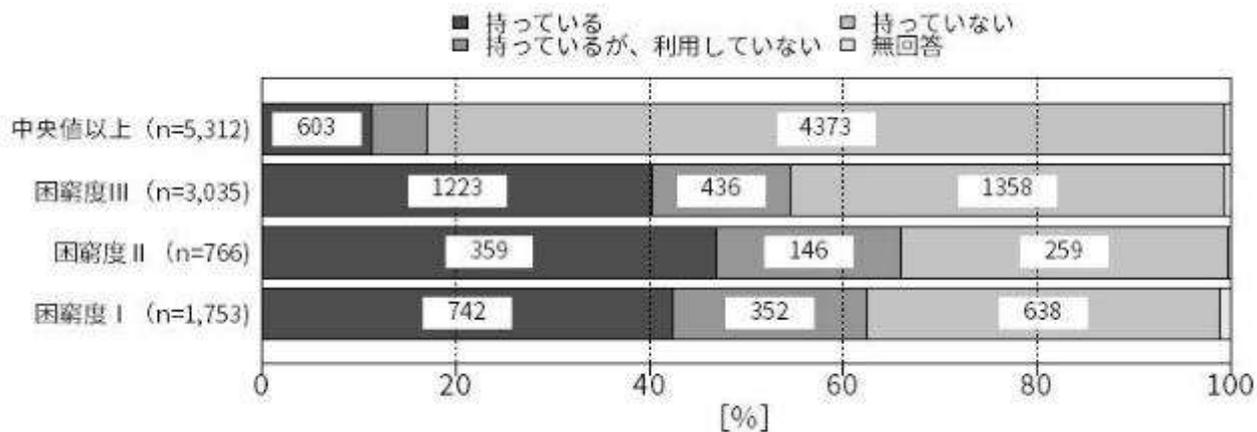


図 214. 父親の最終学歴別に見た、希望する進学先

父親の最終学歴別に子どもの希望する進学先を見ると、父親が中卒または高校中退者では、「中学校」または「高校」までと回答した子どもの割合が高くなっている傾向にある。

困窮度別に見た、塾代助成カードの所持状況（保護者票 問 18）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

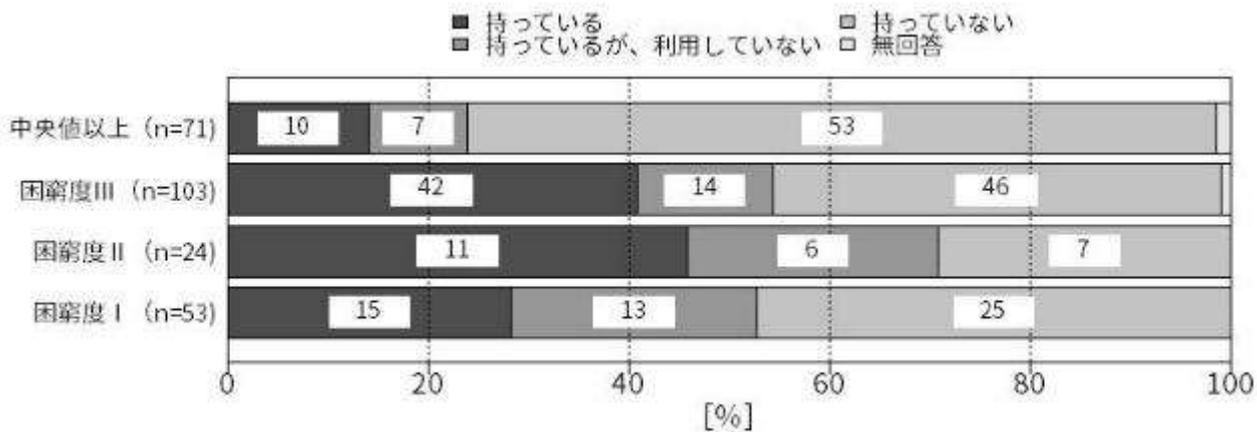
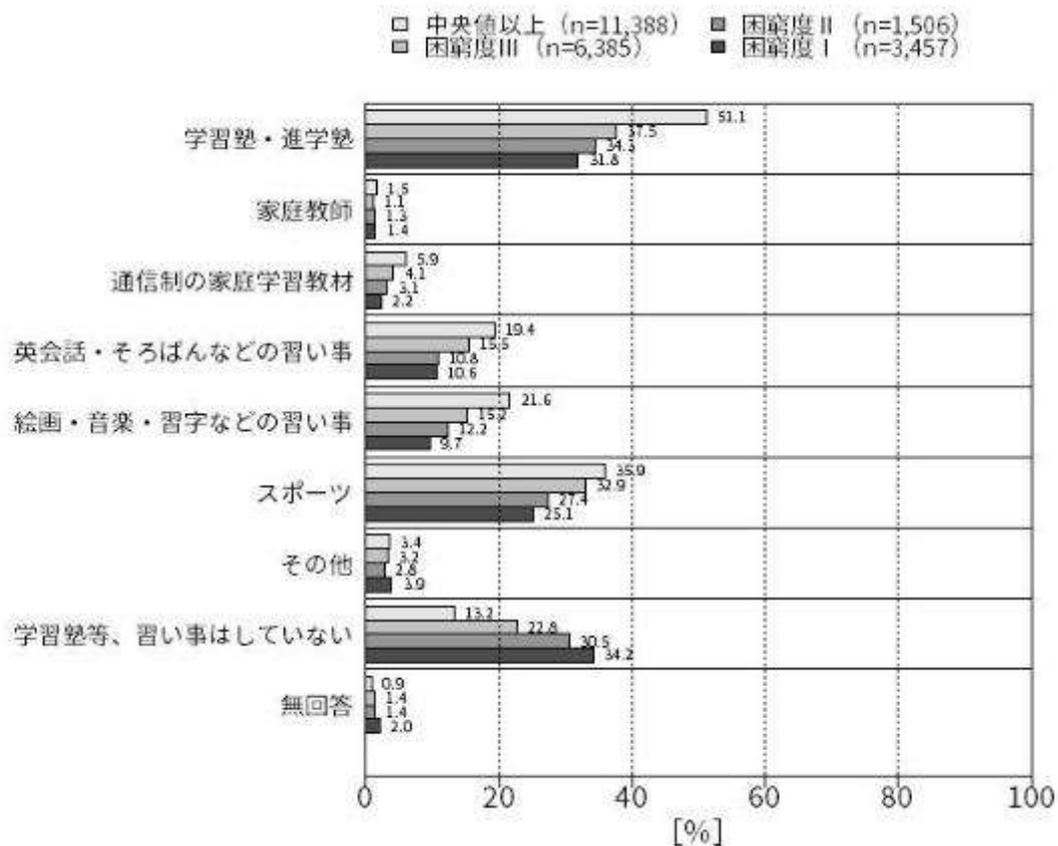


図 215. 困窮度別に見た、塾代助成カードの所持状況

困窮度Ⅰ群では、塾代助成カードを「持っている」が28.3%であったのに対し、困窮度Ⅱ群では45.8%、困窮度Ⅲ群では40.8%であった。

困窮度別に見た、学習塾等の利用状況（子ども票 問15）

<大阪市 24 区>



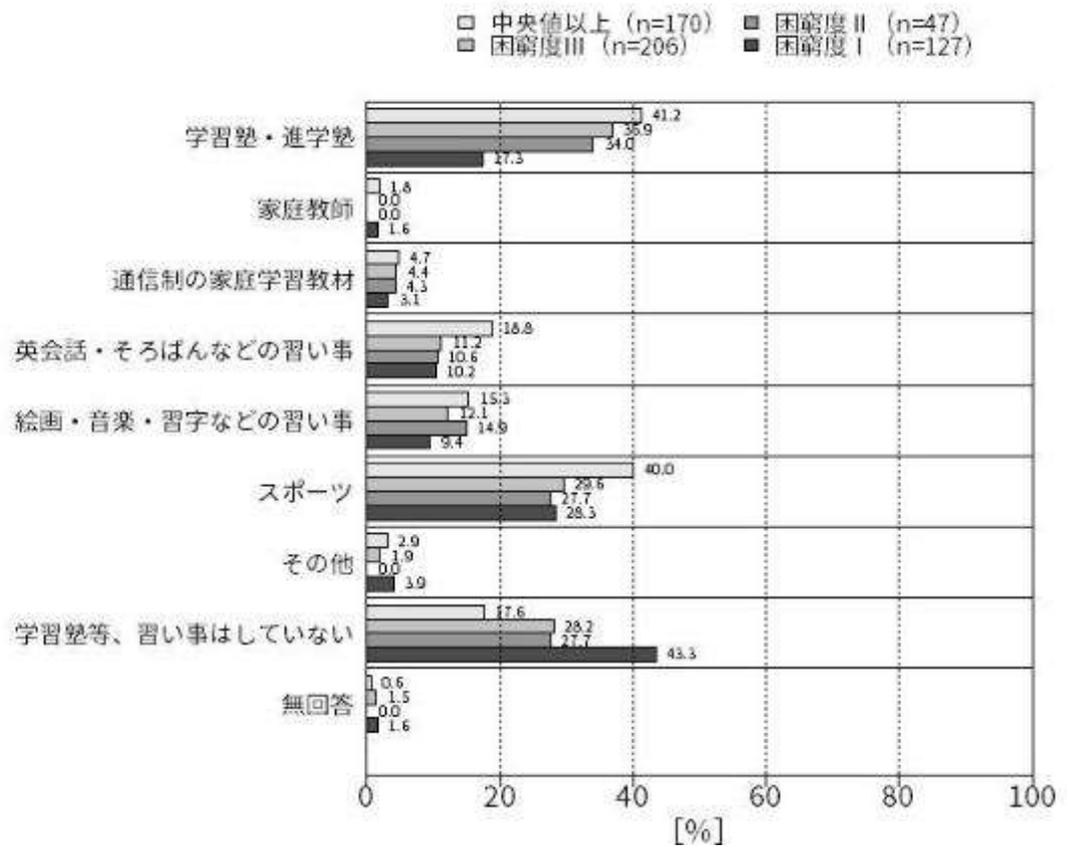
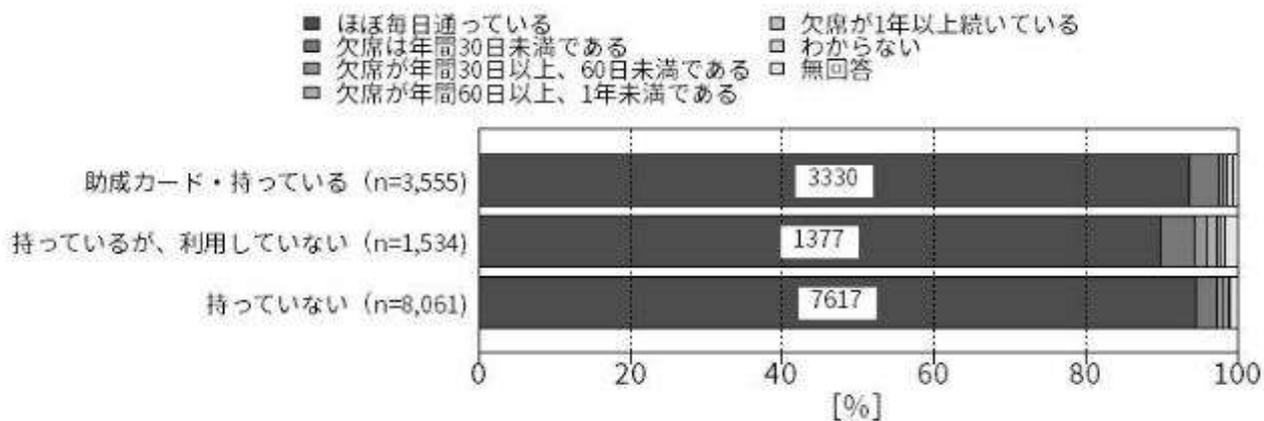


図 216. 困窮度別に見た、学習塾等の利用状況

困窮度Ⅰ群では、「学習塾・進学塾」に通っていると回答した割合が17.3%であったのに対し、困窮度Ⅱ群では34%、困窮度Ⅲ群では36.9%であった。「学習塾等、習い事はしていない」と回答したのは、中央値以上群では17.6%であったのに対して、困窮度Ⅰ群では43.3%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、通学状況（保護者票 問 18 × 保護者票 問 21）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

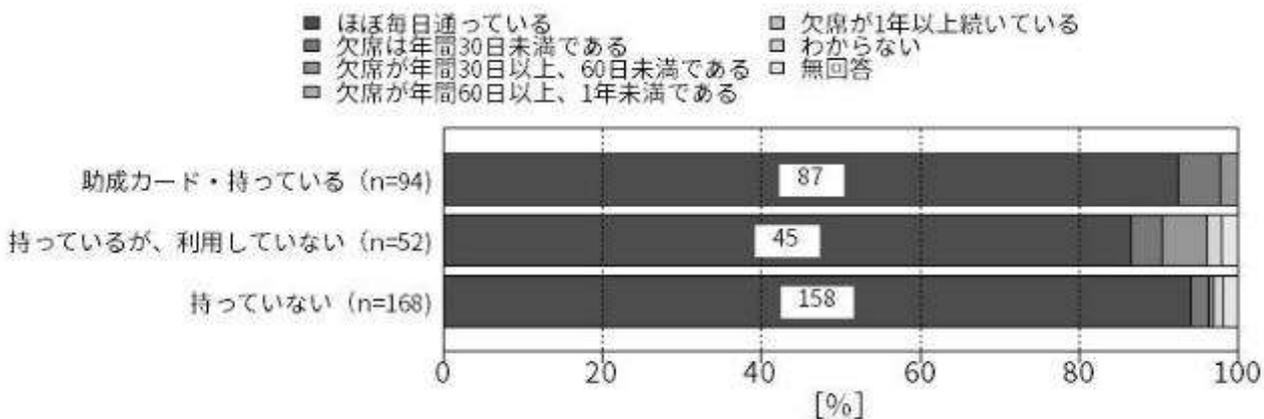


図 217. 塾代助成カードの所持状況別に見た、通学状況

塾代助成カードを持っていない人は、子どもが学校に「ほぼ毎日通っている」と回答した割合が 94.0%であったのに対し、持っているが利用していない人が 86.5%、持っている人が 92.6%であった。